

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
大村美容ファッション専門学校	平成4年3月31日	斎藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1786				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1786				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
衛生	美容専門課程	美容科 (アエスタイリストコース)	平成28年文部科学省告示第12号	—			
学科の目的	本校が目指す教育は、卒業後すぐに即戦力となり、人材を育成することです。即戦力育成のためには、在学中から就業した時を想定した授業展開や深い専門知識の習得が不可欠です。そのためには、関係業界からの協力を得て、今現在の業界の動向や必要とされる能力や技術、それを実現させるための授業内容等についての意見や要望をいただいて参考にし、実践的な教育を展開していきます。						
修業年限	昼夜	全課程の終了による必要な修業実績又は認定単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2010時間	765時間	0時間	1045時間	0時間	0時間
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	添教員数		
	480人	265人	0人	15人	7人	22人	
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月20日～1月10日 ■学 年末:3月20日～4月8日			卒業・進級条件	必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして対処			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織「ボランティア」、学園祭等の実行委員会等 町内行事への参加、学生自治組織、清掃ボランティア		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) TAYA ■就職指導内容 就職ホームページによる担当からの指導 就職担当職員による個別の面談指導 など ■卒業者数 125 人 ■就職希望者数 121 人 ■就職者数 121 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.8 % ■その他 ・進学者数: 0人			主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		
	(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)				資格・検定名 種 受験者数 合格者数 美容師国家試験 ② 125 人 122 人		
中途退学の現状	■中途退学者 12 名 ■中退率 4.3 % 平成28年4月1日時点において、在学者274名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者262名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、経済的問題、進路変更、病気				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等减免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載				■自由記述欄 (例)認定学科の学生、卒業生のコンテスト入賞状況等		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科のホームページURL	URL: http://www.ormula.com/						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをおもいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※就職(内定)状況調査における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯医学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料・賃金・報酬その他経常的な収入を得る仕事を就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職とはしません。就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学者数を記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において得る目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生、卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																															
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針																															
当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しい業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。																															
(2)教育課程編成委員会等の位置付け																															
学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載) ① 本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案 ② 委員会で内容を検討 ③ 意見や改善案を理事長に提出 ④ 委員会からの意見・改善案を加味して、学校長が次年度の教育課程の内容を決定																															
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿																															
平成29年10月12現在																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th><th>所属</th><th>任期</th><th>種別</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桝島 里枝</td><td>ボディージュエリスト検定 (協会株式会社Crazy Carats)</td><td>H29.4.1～H31.3.31(2年)</td><td>①</td></tr> <tr> <td>田中 征洋</td><td>株式会社 ダム</td><td>H29.4.1～H31.3.31(2年)</td><td>③</td></tr> <tr> <td>甲木 輝彦</td><td>ビューティービジョン協同組合</td><td>H29.4.1～H31.3.31(2年)</td><td>③</td></tr> <tr> <td>斎藤 ちづる</td><td>大村美容ファッショントークン専門学校 (校長)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>萩野 清美</td><td>大村美容ファッショントークン専門学校 (教務課長)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td> </td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	桝島 里枝	ボディージュエリスト検定 (協会株式会社Crazy Carats)	H29.4.1～H31.3.31(2年)	①	田中 征洋	株式会社 ダム	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③	甲木 輝彦	ビューティービジョン協同組合	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③	斎藤 ちづる	大村美容ファッショントークン専門学校 (校長)			萩野 清美	大村美容ファッショントークン専門学校 (教務課長)						
名前	所属	任期	種別																												
桝島 里枝	ボディージュエリスト検定 (協会株式会社Crazy Carats)	H29.4.1～H31.3.31(2年)	①																												
田中 征洋	株式会社 ダム	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③																												
甲木 輝彦	ビューティービジョン協同組合	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③																												
斎藤 ちづる	大村美容ファッショントークン専門学校 (校長)																														
萩野 清美	大村美容ファッショントークン専門学校 (教務課長)																														
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員																															
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期																															
学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。																															
(開催日時) 第1回 平成27年12月14日 13:00～15:00 第2回 平成28年5月15日 13:00～15:00 第3回 平成28年12月12日 13:00～15:00 第4回 平成29年5月15日 13:00～15:00																															
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況																															
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。																															
◎ボディージュエリーについて 年々、ボディージュエリーが一般に浸透ってきており、特にブライダルやパーティーなどの特別な場での需要が増えている就職した後に大きな武器になると思うので、就職先やお客様へ自信を持って提案していくよう学校としてしっかりと学生へ後押しの指導をおこなってほしい																															
◎オーデザインズ実習について 就職した後のアシスタントとして重要なシャンプー技術について、昨年から実習授業の時間以外にも放課後などを利用し、学校として技術向上の取り組みをおこなってくれているので、ぜひ継続して即戦力となりえる技術を身に付けさせてほしいアシスタントカルテの在り方、学生独自のクラス接客数対策、学生の店舗販売への教育と売上目標立てについて、卒業条件の見直しなども検討しながら、更なる改善を期待する																															
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係																															
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針																															
コミュニケーション能力を持ち、顧客のニーズに合わせて柔軟に対応できる現場で即戦力となる社会人の早期育成をおこなうことを目的として、移り変わるべき業界の現在の状況を基にした指導や審査をおこなっていましたが、自分に不足しているのは何なのか、実際に働く上で何が重要なのかを、学生自身に実体験として理解させることにより目標が明確になり、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。																															
(2)実習・演習等における企業等との連携内容																															
実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます。 学生は、実際に企業に身を置き、実体験に基づいて指導を受けることにより、何が必要なスキルや能力なのかを学び、自分がすべき事は何かを自己分析して意識の向上を図ります。 学生は、実地研修レポートに目標とそのために取り組んだ事、企業から指導を受けた内容や自身の自己評価などを記入して、それを企業に提出して評価・アドバイスをもらった後、企業から学校へ提出されます。																															
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th><th>科目概要</th><th>連携企業等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務実習</td><td>インターンシップという業界経験を通して、美容師の仕事を理解することにより、自分の将来の美容師像の明確化、就職意識の醸成を図ります。</td><td>ビーハイブデラックス、Daisy、Pla ss 他</td></tr> <tr> <td> </td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	実務実習	インターンシップという業界経験を通して、美容師の仕事を理解することにより、自分の将来の美容師像の明確化、就職意識の醸成を図ります。	ビーハイブデラックス、Daisy、Pla ss 他																						
科目名	科目概要	連携企業等																													
実務実習	インターンシップという業界経験を通して、美容師の仕事を理解することにより、自分の将来の美容師像の明確化、就職意識の醸成を図ります。	ビーハイブデラックス、Daisy、Pla ss 他																													

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にアクション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。	
1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム (ア)資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修 (イ)業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修 (ウ)企業が主催するコンテスト対策の授業 (エ)最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修	
2. 教員の指導力向上のためのプログラム (ア)組織のチームビルディングを形成するための研修 (イ)傾聴技法を学ぶ研修 (ウ)青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修	
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等	
◎九州地区理容師美容師養成施設教職員研修会 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.10.31～H28.11.1 主催 九州地区理容師美容師養成施設協議会 概要 コンテストのヘアカラーリングについてや、アロマテラピーの効用と教育現場への活用について学び、実践に活かします	
◎美容師養成施設教員研修 美容技術理論、美容実習 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.6.6～H28.6.17 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 カット、ネイル、ヘアセッティング、メイク、まつ毛エクステ、エステ、パーマ、カラー等について、理論講義と実習を交えながら学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎美容師養成施設教員研修 卫生管理 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.8.22～H28.9.13 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 美容の関連法規、環境衛生、公衆衛生、感染症、消毒法、衛生管理技術などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎まつげエクステ講師育成講習 参加 対象学科の教員1名 期間 H29.2.20～H29.2.25 主催 株式会社H&M 概要 まつげエクステについての知識、トラブルがおこる要因、指導する際の注意点などを実習もおこないながら学びます	
②指導力の修得・向上のための研修等	
◎新任教員研修 参加 対象学科の教員4名 期間 H28.8.2～H28.8.4 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会 概要 専修学校の在り方と授業実践、自己点検・評価の進め方、学内における救急処置 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任教員のための目標管理力や新任教員の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す	
◎アドラー心理学を活用する退学防止策とクラス経営術 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.8.18 主催 一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 概要 アドラー心理学等を活用しながら具体的な対策を学んで、今後のクラス運営に活かします	
◎教員のキャリアデザインワークショップ 参加 対象学科の教員2名 期間 H28.8.29～H28.8.31 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく	
◎未来ノートによるキャリア教育の考え方と進め方 参加 対象学科の教員1名	

<p>期間 H28.9.6 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 キャリア教育に未来ノートを活用することで、学生の仕事に対する考え方や必要な力を分かりやすく理解させ、学生自身が答えを導き出せることを目指します</p> <p>⑤九州地区理容師美容師養成施設教職員研修会 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.10.31～H28.11.1 主催 九州地区理容師美容師養成施設協議会 概要 教育現場におけるトラブル・クレーム処理の対応、LGBTの学生への対応、教職員のコミュニケーションスキルなどについて学び、実践に活かします</p> <p>(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>②全国理容師美容師養成施設教職員研修会 参加 対象学科の教員3名 期間 H29.8.2～H29.8.4 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 理容美容教育の一層の充実をはかり、理容師美容師の資質の向上に寄与することを目的とする 大銀杏の実演、十二単の実演など</p> <p>③美容師養成施設教員研修 衛生管理 参加 対象学科の教員1名 期間 H29.8.21～H29.9.12 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 美容の関連法規、環境衛生、公衆衛生、感染症、消毒法、衛生管理技術などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます</p> <p>④美容師養成施設教員研修 香粧品化学 参加 対象学科の教員1名 期間 H30.1.15～H30.1.26 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 香粧品の概論や原料、メイクアップ・頭皮頭髪・芳香など香粧品の用途別に化学的な観点からも踏まえて学び、その授業構築と実践について理解を深めます</p> <p>⑤指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>⑥教員のキャリアデザインワークショップ 参加 対象学科の教員1名 期間 H29.9.27～H29.9.29 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく</p> <p>⑦教育・指導力向上(ファシリテーションの効果を実感する体験学習 参加 対象学科の教員2名 期間 H29.8.1～H29.8.2 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 体験から学ぶ方法としての「ラボラトリー形式の体験学習」について理解を深め、ファシリテーターとなるためにどんなマインドで知識とスキルを必要とするかを確認し、教育と指導力の向上を目指す</p> <p>⑧新任教員研修 参加 対象学科の教員2名 期間 平成29年8月1日～平成29年8月3日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 学生・教員のための実践心理、専修学校の制度、専修学校における制度と職業教育 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任教員育成のための目標管理力や新任教員の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す</p>				
<p>4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p>				
<p>(1)学校関係者評価の基本方針</p> <p>在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。 そのために、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんのこと、評価をする上でその他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。</p> <p>(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td> ① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか </td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目			
(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか			

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に關し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多くて違和感はないだろうが、タバコを吸つた後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。
→今まで少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、

しつかりとした指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたら stylist の動きに違和感がある。「スタイリスト対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)

学生にもっと(一般的)サロンモデルをやって欲しい。

→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として 臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドrescoード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。

→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 輝彦	有限会社KATSUKI (ビューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() 公表年月日:H29.9.28

URL: <http://www.omula.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知ってもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の目標及び計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム ・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	・収支報告書、財産目録
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

授業科目等の概要

(美容専門課程美容科(ヘアスタイルコース)) 平成29年度										企業等との連携			
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	校内	校外	専任	兼任
○			関係法規	美容師免許の取得方法や美容室(サロン)の開設の届出などの美容師法を学習します。	1 2 通	30		○		○		○	
○			衛生管理	美容師と公衆衛生との結びつき、発展の歴史を理解して対人的な予防医学を学習します。	1 2 通	90		○		○		○	
○			美容保健	人体の構造と機能を基本的な概念で理解して、解剖学的表現の基本的用語と意味を学習します。	1 2 通	120		○		○		○	
○			物理・化学	身近な物理現象についての基礎を理解して、自然に親しみ、尊重する態度を養うことを学習します。	1 2 通	90		○		○		○	
○			美容文化論	「美容」、「美しさ」などの言葉を理解し、美容と関わりが深い顔、化粧、髪について学習します。美容業の歴史を知り、これまでの美容の改革を学びます。	1 通	60		○		○		○	
○			デッサン	デッサンの知識や道具の使い方と手入れ方法を学び、デッサンを通じて全てのものを立体的にとらえる事ができます。	1 通	15				○	○		○
○			ファッショニ	コレクションについて理解し、また、ヘアーメイクでも携わるモデルについての知識を身につけます。	1 通	15		○		○		○	
○			美容技術理論	美容で必要な技術の解説をテキストに沿って学習していきます。 技術の目的を踏まえて、用具の使い方などを学びます。	1 2 通	120		○		○		○	
○			運営管理	美容の業である接客の基本(挨拶・返事・時間・5S)から、お客様に信頼される美容師・経営者になるための、実践方法や法的義務を学びます。	1 通	60		○		○		○	
○			国家試験課題1(W) ウインディング	国家試験課題のスタイル構成、技術の条件、準備時間、準備物を学習し、パーマをかける仕組みやスタイルとの組み合わせの必要性が学べます。	1 通	210				○	○	○	
○			国家試験課題2(P) オールウェーブセッティング	国家試験課題のスタイル構成、技術の条件、準備時間、準備物を学習します。ウェーブの基礎技術では美容の作業の姿勢や立ち位置を身に付けます。	1 通	150				○	○	○	

○		国家試験課題 3 (C) カッティング	国家試験課題のスタイル構成、技術の条件、準備時間、準備物を学習します。道具の使い方、正しい姿勢、カット手順を理解して、ウェットカットを学習します。	1 通	90				○	○	○		
○		国家試験対策 (実技・学科)	国家試験での採点方法や技術内容の知識と技術を学びます。衛生面の必要性を理解して、模擬テストを7回おこないます。	2 ② ③	240				○	○	○		
○		実務実習	サロンへの挨拶の為のアポイントから実際のサロンワークを通して、美容師の仕事を体験し理解を深め自分の将来を考えます。	1 ③ 2 通	105				○	○	○	○	
○		人間形成学 1	様々な題材（テーマ）を基に学生自身が経験や情報収集を行い、グループ内で発表しそれぞれ持ち寄った考えや意見をまとめ、発表します。	1 通	15		○		○	○	○		
○		人間形成学 2	学生と社会人の違いを理解して、就職する目的を学習します。書類作成や求人票の見かたから応募するまでの手順を学びます。	2 通	30		○		○	○	○		
○		キャリア教育 1	職業とは何か、働くことの目的を理解し、自分の職業観や人生観について考え、自己分析を行い自己理解します	1 通	15		○		○	○	○		
○		キャリア教育 2	社会人・職業人としてのモラルを考え・行動できるようにし、実際にあったトラブルや人間関係を、聴くことによって問題解決する力をつける。	2 通	30		○		○	○	○		
○		就職セミナー 1	就職活動についての注意事項・求人票の見方を学習します。サロンワークではレポートによるスキルアップを図り、本番である2年次の就職活動につなげます。	1 ② ③	15		○		○	○	○		
○		就職セミナー 2	自分に合ったサロン選びの為の個人面だから、就職活動に必要な面接指導・練習を行い、大村独自の履歴書の作成を行います。	2 通	60		○		○	○	○		
○		ボディジュエリー	サロン（現場）でお客様に施術することができる技術・資格を習得できます。	2 ③	15				○	○	○		
○		カラー理論・ 技術 1	道具の使い方やお手入れまでの取り扱いと薬剤の調合を学習します。ブロッキングとブラシでの適量塗布を学び、実際に塗布してカラー技術を身に付けます。	1 ③	15				○	○	○		
○		カラー理論・ 技術 2	薬事法に基づき、カラーの扱い方や危険性を理解し、毛髪診断によるカラー剤の選択を学習します。	2 ① ②	30				○	○	○		
○		アイロンワー ク	アイロンの使い方・巻き方・カールの出し方の基礎から学び、スタイルに合わせたアイロン技術とデザイン力を身につけることができます。	1 ②	15				○	○	○		
○		シャンプー 1	実際、人の頭による練習を重ねる事によって手や体の動き、シャワーノズルの使い方などを身に付けます。ルーキー検定があり、目標を持って取り組む事ができます。	1 通	15				○	○	○		

○		シャンプー2	美容技術とシャンプーの関連性と理論を理解して、応用シャンプーとバックシャンプーを習得します。	2 通	30				○	○	○			
○		ベーシックメイク	筆選びから顔の骨格・トーンの出し方等の基礎技術を学び、実際に人にメイクを行うことが出来るようになります。	1 ②	15				○	○	○			
○		トレンドメイク	ベーシックメイクアップからモデルへの似合せを理解して、トータルバランスを追求した作品創りを学習します。	2 ①	15				○	○	○			
○		ベーシックカット理論・技術1	毛髪の構造・性質を理解して、カットの基礎技術を学習します。ブロードライによる仕上げ、スタイリング剤の使用で作品を完成させる工程を学習します。	2 ①	30				○	○	○			
○		スタイリストコース特化授業	スタイリストコース授業（カット理論・ブロー理論）を中心に行い、スタイリングから作品制作までを行います。	1 ③	15				○	○	○			
○		カラーリストコース特化授業	カラーリストコース授業（カラー理論・ホイルワーク）中心に行い、色選びから塗布技術、作品制作を行います。	1 ③	15				○	○	○			
○		ヘアメイクアーティストコース特化授業	ヘアメイクアーティストコース授業（アイロンワーク・アレンジ）を中心に行い、アレンジの基礎技術から作品制作までを行います。	1 ③	15				○	○	○			
○		校内コンテスト	3回の国家試験課題コンテストで集中力と国家試験合格レベルの技術力を身に付けます。	2 通	45				○	○	○			
○		0.designs教育1	0.designs運営の準備として、サロンワークの基本となる接客技術の『お迎え～お見送り』ドアマン、レセプションのロープレを通して練習し検定試験をおこないます。	1 ③	15				○	○	○			
○		0.designs教育2	0.designsでのサロンワークを通して実践的に学びます。サロンワーク検定は、1年次のルーキー検定に始まり、2年次のサロンワーク検定1～2をおこないます。	2 ① ②	30				○	○	○			
○		アジア・ビューティーコングレス	・ワインディング・ウイッグデザイン・メイクデザイン・アンダー23 レディスカット・アンダー23 メンズカットの部門内容にあわせ、制作していきます。	2 ① ②	30				○	○	○			
○		外部講師	現在活躍中の講師による授業で、現場の流行や技術・話術を学ぶことが出来、最先端の流行を取り入れることが出来ます。	2 ① ②	15		○		○	○	○			
○		ベーシックカット2	ロング・ミディアム・ショートのサロンスタイルのカットとブローの技術を身につけ、仕上げのテクニックやスタイリング剤の研究を行い、完成度の高い作品を作ります。	2 ① ②	60				○	○	○			
○		ブローテクニック	ロング・ミディアム・ショートのサロンスタイルのカットとブローの技術を身につけ、仕上げのテクニックやスタイリング剤の研究を行い、完成度の高い作品を作ります。	2 ① ②	30				○	○	○			

合計		39科目		2010単位時間(単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①この学則で定める必要な時間数を履修していること。 ②教科科目の区分ごとに、その教科科目の3分の2以上 (実習を伴う教科科目は5分の4以上)出席していること。 ③学期末試験において、すべての課目が60点以上であること。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	13週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
大村美容ファッション専門学校	平成4年3月31日	齊藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766	専門士	高度専門士
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士	
衛生	美容専門課程	美容科 (ヘアメイクアーティストコース)	平成28年文部科学省告示第12号	一	
学科の目的	本校が目指す教育は、卒業後すぐに即戦力となり、人材を育成することです。即戦力育成のためには、在学中から就業した時を想定した授業展開や深い専門知識の習得が不可欠です。 そのためには、関係業界からの協力を得て、今現在の業界の動向や必要とされる能力や技術、それを実現させるための授業内容等についての意見や要望をいたして参考にし、実践的な教育を展開していきます。				
修業年限	昼夜 各教科の修了に必要な 各授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験
2年	昼間 2010時間	765時間	0時間	1045時間	0時間
生徒定員	生徒実員	留学生数(生徒実員内)	専任教員数	兼任教員数	兼科教員数
480人	265人	0人	15人	7人	22人
学期制度	■1学期:4月1日~8月31日 ■2学期:9月1日~12月31日 ■3学期:1月1日~3月31日	成績評価 卒業・進級 条件	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に 勘案	必要的時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上	
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏 季:8月1日~8月31日 ■冬 季:12月20日~1月10日 ■学 年末:3月20日~4月8日				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして対処	課外活動 主な学修成果 (資格・検定等) <small>※3</small>	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 町内行事への参加、学生自治組織、清掃ボランティア	■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に該する平成29年5月1日時点の情報)	
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) TAYA ■就職指導内容 就職ホームページによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導 など				
就職等の状況※2	■卒業者数 125 人 ■就職希望者数 121 人 ■就職者数 121 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.8 % ■その他 ・進学者数: 0人	主な学修成果 (資格・検定等) <small>※3</small>	■各種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)	■自由記述欄 (例)認定学科の学生、卒業生のコンテスト入賞状況等	
	(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)				
中途退学の現状	■中途退学者 12 名 平成28年4月1日時点において、在学者274名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者262名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、経済的問題、進路変更、病気	■中退率 4.3 %			
中途退学の現状	■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転校の実施等 日頃からの気配りや声掛けなどの強化、早めの気付きによる個別面談等の対処、カウンセラーによる面談				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等减免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容記入	■専門実践教育訓練給付: 給付対象 _※ 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 _※ 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受賞年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)				
当該学科のホームページURL		URL: http://www.omula.com/			

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄してください。

2. 就職率の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の『就職率』の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合といい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年次中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、歯医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生、卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しい業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

① 本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案

② 委員会で内容を検討

③ 意見や改善案を理事長に提出

④ 委員会からの意見・改善案を加味して、学校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月12現在

名前	所属	任期	種別
桃島 里枝	ボディージュエリスト検定 (協会株式会社Crazy Carats)	H29.4.1～H31.3.31(2年)	①
田中 征洋	株式会社 ダム	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③
甲木 輝彦	ビューティービジョン協同組合	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③
齊藤 ちづる	大村美容ファッショントレーニング専門学校 (校長)		
萩野 清美	大村美容ファッショントレーニング専門学校 (教務課長)		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。

(開催日時)

第1回 平成27年12月14日 13:00～15:00

第2回 平成28年5月15日 13:00～15:00

第3回 平成28年12月12日 13:00～15:00

第4回 平成29年5月15日 13:00～15:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

◎ボディージュエリーについて

年々、ボディージュエリーが一般に浸透してきており、特にブライダルやパーティーなどの特別な場での需要が増えている就職した後に大きな武器になると思うので、就職先やお客様へ自信を持って提案していくよう学校としてしっかりと学生へ後押しの指導をおこなってほしい

◎オーデザインズ実習について

就職した後のアシスタントとして重要なシャンプー技術について、昨年から実習授業の時間以外にも放課後などを利用し、学校として技術向上の取り組みをおこなってくれるので、ぜひ継続して即戦力となりえる技術を身に付けさせてほしいアシスタントカルテの在り方、学生独自のクラス接客数対策、学生の店舗販売への教育と売上目標立てについて、卒業条件の見直しなども検討しながら、更なる改善を期待する

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コミュニケーション能力を持ち、顧客のニーズに合わせて柔軟に対応できる現場で即戦力となる社会人の早期育成をおこなうことを目的として、移り変わりの激しい業界の現在の状況を基にした指導や審査をおこなっていましたが、自分に不足しているのは何なのか、実際に働く上で何が重要なのかを、学生自身に実体験として理解させることにより目標が明確になり、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます。

学生は、実際に企業に身を置き、実体験に基づいて指導を受けることにより、何が必要なスキルや能力なのかを学び、自分がすべき事は何かを自己分析して意識の向上を図ります。

学生は、実地研修レポートに目標とそのために取り組んだ事、企業から指導を受けた内容や自身の自己評価などを記入して、それを企業に提出して評価・アドバイスをもらった後、企業から学校へ提出されます。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実務実習	インターンシップという業界経験を通して、美容師の仕事を理解することにより、自分の将来の美容師像の明確化、就職意識の醸成を図ります。	ビーハイブテラックス、Daisy, Plus他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にアクション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。	
1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム (ア)資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修 (イ)業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修 (ウ)企業が主催するコンテスト対策の授業 (エ)最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修	
2. 教員の指導力向上のためのプログラム (ア)組織のチームビルディングを形成するための研修 (イ)傾聴技法を学ぶ研修 (ウ)青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修	
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等	
◎九州地区理容師美容師養成施設教職員研修会 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.10.31～H28.11.1 主催 九州地区理容師美容師養成施設協議会 概要 コンテストのヘアーカラーリングについてや、アロマテラピーの効用と教育現場への活用について学び、実践に活かします	
◎美容師養成施設教員研修 美容技術理論、美容実習 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.6.6～H28.6.17 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 カット、ネイル、ヘアセッティング、メイク、まつ毛エクステ、エステ、パーマ、カラー等について、理論講義と実習を交えながら学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎美容師養成施設教員研修 衛生管理 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.8.22～H28.9.13 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 美容の関連法規、環境衛生、公衆衛生、感染症、消毒法、衛生管理技術などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎美容師養成施設教員研修 美容保健 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.9.26～H28.10.20 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 美容の関係法規、皮膚科学、人体の構造や機能、医学概論などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎まつげエクステ講師育成講習 参加 対象学科の教員1名 期間 H29.2.20～H29.2.25 主催 株式会社H&M 概要 まつげエクステについての知識、トラブルがおこる要因、指導する際の注意点などを実習もおこないながら学びます	
②指導力の修得・向上のための研修等	
◎新任教員研修 参加 対象学科の教員4名 期間 H28.8.2～H28.8.4 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会 概要 専修学校の在り方と授業実践、自己点検・評価の進め方、学内における救急処置 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任教員育成のための目標管理力や新任教員の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す	
◎アドラー心理学を活用する退学防止策とクラス経営術 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.8.18 主催 一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 概要 アドラー心理学等を活用しながら具体的な対策防止策を学んで、今後のクラス運営に活かします	
◎教員のキャリアデザインワークショップ 参加 対象学科の教員2名 期間 H28.8.29～H28.8.31 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく	
◎未来ノートによるキャリア教育の考え方と進め方 参加 対象学科の教員1名	

期間 H28.9.6

主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団

概要 キャリア教育に未来ノートを活用することで、学生の仕事に対する考え方や必要な力を分かりやすく理解させ、学生自身が答えを導き出せることを目指します

⑤九州地区理容師美容師養成施設教職員研修会

参加 対象学科の教員1名

期間 H28.10.31～H28.11.1

主催 九州地区理容師美容師養成施設協議会

概要 教育現場におけるトラブル・クレーム処理の対応、LGBTの学生への対応、教職員のコミュニケーションスキルなどについて学び、実践に活かします

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

⑥全国理容師美容師養成施設教職員研修会

参加 対象学科の教員3名

期間 H29.8.2～H29.8.4

主催 公益社団法人日本理容美容教育センター

概要 理容美容教育の一層の充実をはかり、理容師美容師の資質の向上に寄与することを目的とする

大銀杏の実演、十二単の実演など

⑦美容師養成施設教員研修 衛生管理

参加 対象学科の教員1名

期間 H29.8.21～H29.9.12

主催 公益社団法人日本理容美容教育センター

概要 美容の関連法規、環境衛生、公衆衛生、感染症、消毒法、衛生管理技術などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます

⑧美容師養成施設教員研修 香粧品化学

参加 対象学科の教員1名

期間 H30.1.15～H30.1.26

主催 公益社団法人日本理容美容教育センター

概要 香粧品の概論や原料、マイクアップ・頭皮頭髪・芳香など香粧品の用途別に化学的な観点からも踏まえて学び、その授業構築と実践について理解を深めます

⑨指導力の修得・向上のための研修等

⑩教員のキャリアデザインワークショップ

参加 対象学科の教員1名

期間 H29.9.27～H29.9.29

主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団

概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく

⑪教育・指導力向上(ファシリテーションの効果を実感する体験学習

参加 対象学科の教員2名

期間 H29.8.1～H29.8.2

主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団

概要 体験から学ぶ方法としての「ラボラトリー形式の体験学習」について理解を深め、ファシリテーターとなるためにどんなマインドで知識とスキルを必要とするかを確認し、教育と指導力の向上を目指す

⑫新任教員研修

参加 対象学科の教員2名

期間 平成29年8月1日～平成29年8月3日

主催 職業教育・キャリア教育財団

概要 学生・教員のための実践心理、専修学校の制度、専修学校における制度と職業教育
新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任教員育成のための目標管理力や新任教員の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。

そのために、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんのこと、評価をする上で他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(1)教育理念・目標	

(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な职业教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 預算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に關し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多いことで違和感はないだろうが、タバコを吸った後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。
→今まで少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、

しつかりとした指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたら stylist の動きに違和感がある。「stylist 対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)
学生にもっと(一般的)のサロンモデルをやって欲しい。
→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として 臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドレスコード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。
→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 輝彦	有限会社KATSUKI (ビューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31 日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表年月日:H29.9.28

URL: <http://www.onula.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していないかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知つてもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の目標及び計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム ・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	・收支報告書、財産目録
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

授業科目等の概要

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規	美容師免許の取得方法や美容室（サロン）の開設の届出などの美容師法を学習します。	1 2 通	30		○			○			○	
○			衛生管理	美容師と公衆衛生との結びつき、発展の歴史を理解して対人的な予防医学を学習します。	1 2 通	90		○			○			○	
○			美容保健	人体の構造と機能を基本的な概念で理解して、解剖学的表現の基本的用語と意味を学習します。	1 2 通	120		○			○			○	
○			物理・化学	身近な物理現象についての基礎を理解して、自然に親しみ、尊重する態度を養うことを学習します。	1 2 通	90		○			○			○	
○			美容文化論	「美容」、「美しさ」などの言葉を理解し、美容と関わりが深い顔、化粧、髪について学習します。美容業の歴史を知り、これまでの美容の改革を学びます。	1 通	60		○			○		○		
○			デッサン	デッサンの知識や道具の使い方と手入れ方法を学び、デッサンを通じて全てのものを立体的にとらえる事ができます。	1 通	15					○	○		○	
○			ファッショニ	コレクションについて理解し、また、ヘアーメイクでも携わるモデルについての知識を身につけます。	1 通	15		○			○			○	
○			美容技術理論	美容で必要な技術の解説をテキストに沿って学習していきます。 技術の目的を踏まえて、用具の使い方などを学びます。	1 2 通	120		○			○		○		
○			運営管理	美容の業である接客の基本（挨拶・返事・時間・5S）から、お客様に信頼される美容師・経営者になるための、実践方法や法的義務を学びます。	1 通	60		○			○		○		
○			国家試験課題1 (W) ウインディング	国家試験課題のスタイル構成、技術の条件、準備時間、準備物を学習し、パーマをかける仕組みやスタイルとの組み合わせの必要性が学べます。	1 通	210					○	○		○	
○			国家試験課題2 (P) オールウェーブセッティング	国家試験課題のスタイル構成、技術の条件、準備時間、準備物を学習します。ウェーブの基礎技術では美容の作業の姿勢や立ち位置を身に付けます。	1 通	150					○	○		○	

○		国家試験課題 3 (C) カット ティング	国家試験課題のスタイル構成、技術の条件、準備時間、準備物を学習します。道具の使い方、正しい姿勢、カット手順を理解して、ウェットカットを学習します。	1 通	90				○	○	○		
○		国家試験対策 (実技・学科)	国家試験での採点方法や技術内容の知識と技術を学びます。衛生面の必要性を理解して、模擬テストを7回おこないます。	2 ② ③	240				○	○	○		
○		実務実習	サロンへの挨拶の為のアポイントから実際のサロンワークを通して、美容師の仕事を体験し理解を深め自分の将来を考えます。	1 ③ 2 通	105				○	○	○	○	
○		人間形成学 1	様々な題材（テーマ）を基に学生自身が経験や情報収集を行い、グループ内で発表しそれぞれ持ち寄った考えや意見をまとめ、発表します。	1 通	15		○		○	○	○		
○		人間形成学 2	学生と社会人の違いを理解して、就職する目的を学習します。書類作成や求人票の見かたから応募するまでの手順を学びます。	2 通	30		○		○	○	○		
○		キャリア教育 1	職業とは何か、働くことの目的を理解し、自分の職業観や人生観について考え、自己分析を行い自己理解します	1 通	15		○		○	○	○		
○		キャリア教育 2	社会人・職業人としてのモラルを考え・行動できるようにし、実際にあったトラブルや人間関係を、聴くことによって問題解決する力をつける。	2 通	30		○		○	○	○		
○		就職セミナー 1	就職活動についての注意事項・求人票の見方を学習します。サロンワークではレポートによるスキルアップを図り、本番である2年次の就職活動につなげます。	1 ② ③	15		○		○	○	○		
○		就職セミナー 2	自分に合ったサロン選びの為の個人面だから、就職活動に必要な面接指導・練習を行い、大村独自の履歴書の作成を行います。	2 通	60		○		○	○	○		
○		ボディジュエリー	サロン（現場）でお客様に施術することができる技術・資格を習得できます。	2 ③	15				○	○	○		
○		カラー理論・ 技術 1	道具の使い方やお手入れまでの取り扱いと薬剤の調合を学習します。ブロッキングとブラシでの適量塗布を学び、実際に塗布してカラー技術を身に付けます。	1 ③	15				○	○	○		
○		カラー理論・ 技術 2	薬事法に基づき、カラーの扱い方や危険性を理解し、毛髪診断によるカラー剤の選択を学習します。	2 ① ②	30				○	○	○		
○		アイロンワー ク	アイロンの使い方・巻き方・カールの出し方の基礎から学び、スタイルに合わせたアイロン技術とデザイン力を身につけることができます。	1 ②	15				○	○	○		
○		シャンプー 1	実際、人の頭による練習を重ねる事によって手や体の動き、シャワーノズルの使い方などを身に付けます。ルーキー検定があり、目標を持って取り組む事ができます。	1 通	15				○	○	○		

○		シャンプー2	美容技術とシャンプーの関連性と理論を理解して、応用シャンプーとバックシャンプーを習得します。	2通	30			○ ○	○
○		ベーシックメイク	筆選びから顔の骨格・トーンの出し方等の基礎技術を学び、実際に人にメイクを行うことが出来るようになります。	1 ②	15			○ ○	○
○		トレンドメイク	ベーシックメイクアップからモデルへの似合わせを理解して、トータルバランスを追求した作品創りを学習します。	2 ①	15			○ ○	○
○		ベーシックカット理論・技術1	毛髪の構造・性質を理解して、カットの基礎技術を学習します。ブロードライによる仕上げ、スタイリング剤の使用で作品を完成させる工程を学習します。	2 ①	30			○ ○	○
○		スタイリストコース特化授業	スタイリストコース授業（カット理論・ブロー理論）を中心に行い、スタイリングから作品制作までを行います。	1 ③	15			○ ○	○
○		カラーリストコース特化授業	カラーリストコース授業（カラー理論・ハイルワーク）中心に行い、色選びから塗布技術、作品制作を行います。	1 ③	15			○ ○	○
○		ヘアメイクアーティストコース特化授業	ヘアメイクアーティストコース授業（アイロンワーク・アレンジ）を中心に行い、アレンジの基礎技術から作品制作までを行います。	1 ③	15			○ ○	○
○		校内コンテスト	3回の国家試験課題コンテストで集中力と国家試験合格レベルの技術力を身に付けます。	2通	45			○ ○	○
○		0. designs教育1	0. designs運営の準備として、サロンワークの基本となる接客技術の『お迎え～お見送り』ドアマン、レセプションのロープレを通して練習し検定試験をおこないます。	1 ③	15			○ ○ ○	
○		0. designs教育2	0. designsでのサロンワークを通して実践的に学びます。サロンワーク検定は、1年次のルーキー検定に始まり、2年次のサロンワーク検定1～2をおこないます。	2 ① ②	30			○ ○ ○	
○		アジア・ビューティーコングレス	・ワインディング・ウイッグデザイン・メイクデザイン・アンダーカット・レディスカット・メンズカットの部門内容にあわせ、制作していきます。	2 ① ②	30			○ ○	○
○	○	外部講師	現在活躍中の講師による授業で、現場の流行や技術・話術を学ぶことが出来、最先端の流行を取り入れることが出来ます。	2 ① ②	15	○		○ ○	
○		ファッショントレーニング	ヘアスタイルに合わせてメイクやファッショントレーニングをコーディネートしたり、コンテスト作品創りの工程でトータルバランスとテーマに基づく表現力を学びます。	2 ① ②	15	○		○	
○		ブライダル	ブライダルヘア（ドレス）を学びます。短時間の衣装変えでのヘアーチェンジや、結婚式に呼ばれた際の自分自身のドレスコードやテーブルマナーを学びます。	2 ① ②	15			○ ○	○

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	まつ毛エクステ	サロン（現場）で必要となる基礎知識をすべて習得し、まつ毛エクステシャンとしても就職後に活かすことが出来ます。	2 ① ②	15				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	アレンジ/メイク	毛髪化学による理論と知識を理解して、道具の使い方を学びます。スタイル別に基礎技術を習得してお客様への提案施術までの流れを学習します。	2 ① ②	45				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
					41							
合計		41科目				2010単位時間(　　単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①この学則で定める必要な時間数を履修していること。 ②教科科目の区分ごとに、その教科科目の3分の2以上 (実習を伴う教科科目は5分の4以上)出席していること。 ③学期末試験において、すべての課目が60点以上であること。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	13週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
大村美容ファッション専門学校	平成4年3月31日	斎藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
衛生	美容専門課程	美容科 (カラースペシャリストコース)	平成28年文部科学省告示第12号	—																		
学科の目的	本校が目指す教育は、卒業後すぐに即戦力となり、人材を育成することです。即戦力育成のためには、在学中から就業した時を想定した授業展開や深い専門知識の習得が不可欠です。 そのためには、関係業界からの協力を得て、今現在の業界の動向や必要とされる能力や技術、それを実現させるための授業内容等についての意見や要望をおいて参考にし、実践的な教育を展開していきます。																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 修業年数又は単位 数	講義	演習	実習																	
2年	昼間	2010時間	765時間	0時間	1045時間																	
生徒就定員	生徒実員	留学生数(生徒実員内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
480人	265人	0人	15人	7人	22人																	
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘査</p>																	
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月20日～1月10日 ■学 年 末:3月20日～4月8日			卒業・進級 条件	<p>必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上</p>																	
学修支援等	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして対処</p>			課外活動	<p>■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 町内行事への参加、学生自治組織、清掃ボランティア</p> <p>■サークル活動: 無</p> <p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)</p>																	
就職等の状況※2	<p>■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) TAYA</p> <p>■就職指導内容 就職ホームルームによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導など</p> <p>■卒業者数 125 人 ■就職希望者数 121 人 ■就職者数 121 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.8 % ■その他 ・進学者数: 0人</p> <p>(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)</p>			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容師国家試験</td> <td>②</td> <td>125 人</td> <td>122 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	美容師国家試験	②	125 人	122 人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
美容師国家試験	②	125 人	122 人																			
中途退学の現状	<p>■中途退学者 12 名 平成28年4月1日時点において、在学者274名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者262名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、経済的問題、進路変更、病気</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 自頃からの気配りや声掛けなどの強化、早めの気付きによる個別面談等の対応、カウンセラーによる面談</p>			中退率	4.3 %																	
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等减免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p> <p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受賞年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>																					
第三者による学校評価	当該学科のホームページ URL																					
(留意事項)																						
1. 公表年月日(※1) 最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表するところが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄してください																						
2. 就職率等の状況(※2) 「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の『就職率』の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。 (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点において就職希望者数を就職希望者で除したものをいいます。 ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。 ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。 ※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等です。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部 医学科、歯学科、獣医学科、歯科医院、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。 (2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の割合をいいます。 ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他の常勤的な収入を得る仕事を就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。 (3)上記のほか、「就職者数(開運分野)」は、「学校基本調査」における「開運分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、開運分野へのアルバイト者数や進																						
3. 主な学修成果(※3) 認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。																						

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表するところが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄してください

2. 就職率等の状況(※2)
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の『就職率』の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点において就職希望者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等です。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部 医学科、歯学科、獣医学科、歯科医院、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他の常勤的な収入を得る仕事を就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(開運分野)」は、「学校基本調査」における「開運分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、開運分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しい業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

①本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案

②委員会で内容を検討

③意見や改善案を理事長に提出

④委員会からの意見・改善案を加味して、学校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月12現在

名 前	所 属	任 期	種 別
桃島 里枝	ボディージュエリスト検定 (協会株式会社Crazy Carats)	H29.4.1～H31.3.31(2年)	①
田中 征洋	株式会社 ダム	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③
甲木 輝彦	ピューティービジョン協同組合	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③
齊藤 ちづる	大村美容ファッショングループ専門学校 (校長)		
萩野 清美	大村美容ファッショングループ専門学校 (教務課長)		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。

(開催日時)

第1回 平成27年12月14日 13:00～15:00

第2回 平成28年5月15日 13:00～15:00

第3回 平成28年12月12日 13:00～15:00

第4回 平成29年5月15日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

◎ボディージュエリーについて

年々、ボディージュエリーが一般に浸透してきており、特にブライダルやパーティーなどの特別な場での需要が増えている就職した後に大きな武器になると思うので、就職先やお客様へ自信を持って提案していくよう学校としてしっかりと学生へ後押しの指導をおこなってほしい

◎オーデザインズ実習について

就職した後のアシスタントとして重要なシャンプー技術について、昨年から実習授業の時間以外にも放課後などを利用し、学校として技術向上の取り組みをおこなってくれているので、ぜひ継続して即戦力となりえる技術を身に付けさせてほしいアシスタントカルテの在り方、学生独自のクラス接客数対策、学生の店舗販売への教育と売上目標立てについて、卒業条件の見直しなども検討しながら、更なる改善を期待する

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コミュニケーション能力を持ち、顧客のニーズに合わせて柔軟に対応できる現場で即戦力となる社会人の早期育成をおこなうことを目的として、移り変わりの激しい業界の現在の状況を基にした指導や審査をおこなっていましたが、自分に不足しているのは何なのか、実際に働く上で何が重要なのかを、学生自身に実体験として理解させることにより目標が明確になり、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます。

学生は、実際に企業に身を置き、実体験に基づいて指導を受けることにより、何が必要なスキルや能力なのかを学び、自分がすべき事は何かを自己分析して意識の向上を図ります。

学生は、実地研修レポートに目標とそのために取り組んだ事、企業から指導を受けた内容や自身の自己評価などを記入して、それを企業に提出して評価・アドバイスをもらった後、企業から学校へ提出されます。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
実務実習	インターンシップという業界経験を通して、美容師の仕事を理解することにより、自分の将来の美容師像の明確化、就職意識の醸成を図ります。	ビーハイブデラックス、Daisy, Plus 他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にアクション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。	
1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム (ア)資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修 (イ)業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修 (ウ)企業が主催するコンテスト対策の授業 (エ)最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修	
2. 教員の指導力向上のためのプログラム (ア)組織のチームビルディングを形成するための研修 (イ)傾聴技法を学ぶ研修 (ウ)青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修	
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等	
◎九州地区理容師美容師養成施設教職員研修会 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.10.31～H28.11.1 主催 九州地区理容師美容師養成施設協議会 概要 コンテストのヘアーカラーリングについてや、アロマテラピーの効用と教育現場への活用について学び、実践に活かします	
◎美容師養成施設教員研修 美容技術理論、美容実習 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.6.6～H28.6.17 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 カット、ネイル、ヘアセッティング、メイク、まつ毛エクステ、エステ、パーマ、カラー等について、理論講義と実習を交えながら学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎美容師養成施設教員研修 衛生管理 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.8.22～H28.9.13 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 美容の関連法規、環境衛生、公衆衛生、感染症、消毒法、衛生管理技術などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎美容師養成施設教員研修 美容保健 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.9.26～H28.10.20 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 美容の関係法規、皮膚科学、人体の構造や機能、医学概論などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎まつげエクステ講師育成講習 参加 対象学科の教員1名 期間 H29.2.20～H29.2.25 主催 株式会社H&M 概要 まつげエクステについての知識、トラブルがおこる要因、指導する際の注意点などを実習もおこないながら学びます	
②指導力の修得・向上のための研修等	
◎新任教員研修 参加 対象学科の教員4名 期間 H28.8.2～H28.8.4 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会 概要 専修学校の在り方と授業実践、自己点検・評価の進め方、学内における救急処置 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任教員育成のための目標管理力や新任教員の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す	
◎アドラー心理学を活用する退学防止策とクラス経営術 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.8.18 主催 一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 概要 アドラー心理学等を活用しながら具体的な対策防止策を学んで、今後のクラス運営に活かします	
◎教員のキャリアデザインワークショップ 参加 対象学科の教員2名 期間 H28.8.29～H28.8.31 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく	
◎未来ノートによるキャリア教育の考え方と進め方 参加 対象学科の教員1名	

期間 H28.9.6

主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団

概要 キャリア教育に未来ノートを活用することで、学生の仕事に対する考え方や必要な力を分かりやすく理解させ、学生自身が答えを導き出せることを目指します

◎九州地区理容師美容師養成施設教職員研修会

参加 対象学科の教員1名

期間 H28.10.31～H28.11.1

主催 九州地区理容師美容師養成施設協議会

概要 教育現場におけるトラブル・クレーム処理の対応、LGBTの学生への対応、教職員のコミュニケーションスキルなどについて学び、実践に活かします

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

◎全国理容師美容師養成施設教職員研修会

参加 対象学科の教員3名

期間 H29.8.2～H29.8.4

主催 公益社団法人日本理容美容教育センター

概要 理容美容教育の一層の充実をはかり、理容師美容師の資質の向上に寄与することを目的とする
大銀杏の実演、十二単の実演など

◎美容師養成施設教員研修 衛生管理

参加 対象学科の教員1名

期間 H29.8.21～H29.9.12

主催 公益社団法人日本理容美容教育センター

概要 美容の関連法規、環境衛生、公衆衛生、感染症、消毒法、衛生管理技術などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます

◎美容師養成施設教員研修 香粧品化学

参加 対象学科の教員1名

期間 H30.1.15～H30.1.26

主催 公益社団法人日本理容美容教育センター

概要 香粧品の概論や原料、マイクアップ・頭皮頭髪・芳香など香粧品の用途別に化学的な観点からも踏まえて学び、その授業構築と実践について理解を深めます

②指導力の修得・向上のための研修等

◎教員のキャリアデザインワークショップ

参加 対象学科の教員1名

期間 H29.9.27～H29.9.29

主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団

概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく

◎教育・指導力向上(ファシリテーションの効果を実感する体験学習

参加 対象学科の教員2名

期間 H29.8.1～H29.8.2

主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団

概要 体験から学ぶ方法としての「ラボラトリー形式の体験学習」について理解を深め、ファシリテーターとなるためにどんなマインドで知識とスキルを必要とするかを確認し、教育と指導力の向上を目指す

◎新任教員研修

参加 対象学科の教員2名

期間 平成29年8月1日～平成29年8月3日

主催 職業教育・キャリア教育財団

概要 学生・教員のための実践心理・専修学校の制度、専修学校における制度と職業教育
新任教員の指導・育成力を高めることを目標として、新任教員育成のための目標管理力や新任教員の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。

そのために、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんの事、評価をする上でその他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(1)教育理念・目標	

(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭ 教員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多くいて違和感はないだろうが、タバコを吸った後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。
→今までも少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、

しっかりととした指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたら stylist の動きに違和感がある。「 stylist 対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)
学生にもっと(一般的)のサロンモデルをやって欲しい。
→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として 臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドレスコード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。
→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 輝彦	有限会社KATSUKI (ビューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31 日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表年月日:H29.9.28

URL: <http://www.omula.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知ってもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の目標及び計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム ・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	・収支報告書、財産目録
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

授業科目等の概要

(美容専門課程美容科(カラースペシャリストコース)) 平成29年度												
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習			
○			関係法規	美容師免許の取得方法や美容室(サロン)の開設の届出などの美容師法を学習します。	1 2 通	30		○		○		○
○			衛生管理	美容師と公衆衛生との結びつき、発展の歴史を理解して対人的な予防医学を学習します。	1 2 通	90		○		○		○
○			美容保健	人体の構造と機能を基本的な概念で理解して、解剖学的表現の基本的用語と意味を学習します。	1 2 通	120		○		○		○
○			物理・化学	身近な物理現象についての基礎を理解して、自然に親しみ、尊重する態度を養うことを学習します。	1 2 通	90		○		○		○
○			美容文化論	「美容」、「美しさ」などの言葉を理解し、美容と関わりが深い顔、化粧、髪について学習します。美容業の歴史を知り、これまでの美容の改革を学びます。	1 通	60		○		○		○
○			デッサン	デッサンの知識や道具の使い方と手入れ方法を学び、デッサンを通じて全てのものを立体的にとらえる事ができます。	1 通	15			○	○		○
○			ファッション	コレクションについて理解し、また、ヘアーメイクでも携わるモデルについての知識を身につけます。	1 通	15		○		○		○
○			美容技術理論	美容で必要な技術の解説をテキストに沿って学習していきます。 技術の目的を踏まえて、用具の使い方などを学びます。	1 2 通	120		○		○		○
○			運営管理	美容の業である接客の基本(挨拶・返事・時間・5S)から、お客様に信頼される美容師・経営者になるための、実践方法や法的義務を学びます。	1 通	60		○		○		○
○			国家試験課題1(W) ウインディング	国家試験課題のスタイル構成、技術の条件、準備時間、準備物を学習し、パーマをかける仕組みやスタイルとの組み合わせの必要性が学べます。	1 通	210			○	○		○
○			国家試験課題2(P) オールウェーブセッティング	国家試験課題のスタイル構成、技術の条件、準備時間、準備物を学習します。ウェーブの基礎技術では美容の作業の姿勢や立ち位置を身に付けます。	1 通	150			○	○		○

○		国家試験課題 3 (C) カット ティング	国家試験課題のスタイル構成、技術の条件、準備時間、準備物を学習します。道具の使い方、正しい姿勢、カット手順を理解して、ウェットカットを学習します。	1 通	90				○	○	○			
○		国家試験対策 (実技・学科)	国家試験での採点方法や技術内容の知識と技術を学びます。衛生面の必要性を理解して、模擬テストを7回おこないます。	2 ② ③	240				○	○	○			
○		実務実習	サロンへの挨拶の為のアポイントから実際のサロンワークを通して、美容師の仕事を体験し理解を深め自分の将来を考えます。	1 ③ 2 通	105				○	○	○	○		
○		人間形成学 1	様々な題材（テーマ）を基に学生自身が経験や情報収集を行い、グループ内で発表しそれぞれ持ち寄った考えや意見をまとめ、発表します。	1 通	15		○		○	○	○			
○		人間形成学 2	学生と社会人の違いを理解して、就職する目的を学習します。書類作成や求人票の見かたから応募するまでの手順を学びます。	2 通	30		○		○	○	○			
○		キャリア教育 1	職業とは何か、働くことの目的を理解し、自分の職業観や人生観について考え、自己分析を行い自己理解します	1 通	15		○		○	○	○			
○		キャリア教育 2	社会人・職業人としてのモラルを考え・行動できるようにし、実際にあったトラブルや人間関係を、聴くことによって問題解決する力をつける。	2 通	30		○		○	○	○			
○		就職セミナー 1	就職活動についての注意事項・求人票の見方を学習します。サロンワークではレポートによるスキルアップを図り、本番である2年次の就職活動につなげます。	1 ② ③	15		○		○	○	○			
○		就職セミナー 2	自分に合ったサロン選びの為の個人面だから、就職活動に必要な面接指導・練習を行い、大村独自の履歴書の作成を行います。	2 通	60		○		○	○	○			
○		ボディジュエリー	サロン（現場）でお客様に施術することができる技術・資格を習得できます。	2 ③	15				○	○	○			
○		カラー理論・ 技術 1	道具の使い方やお手入れまでの取り扱いと薬剤の調合を学習します。ブロッキングとブラシでの適量塗布を学び、実際に塗布してカラー技術を身に付けます。	1 ③	15				○	○	○			
○		カラー理論・ 技術 2	薬事法に基づき、カラーの扱い方や危険性を理解し、毛髪診断によるカラー剤の選択を学習します。	2 ① ②	30				○	○	○			
○		アイロンワー ク	アイロンの使い方・巻き方・カールの出し方の基礎から学び、スタイルに合わせたアイロン技術とデザイン力を身につけることができます。	1 ②	15				○	○	○			
○		シャンプー 1	実際、人の頭による練習を重ねる事によって手や体の動き、シャワーノズルの使い方などを身に付けます。ルーキー検定があり、目標を持って取り組む事ができます。	1 通	15				○	○	○			

○		シャンプー 2	美容技術とシャンプーの関連性と理論を理解して、応用シャンプーとバックシャンプーを習得します。	2 通	30				○	○	○		
○		ベーシックメイク	筆選びから顔の骨格・トーンの出し方等の基礎技術を学び、実際に人にメイクを行うことが出来るようになります。	1 ②	15				○	○	○		
○		トレンドメイク	ベーシックメイクアップからモデルへの似合わせを理解して、トータルバランスを追求した作品創りを学習します。	2 ①	15				○	○	○		
○		ベーシックカット理論・技術 1	毛髪の構造・性質を理解して、カットの基礎技術を学習します。ブロードライによる仕上げ、スタイリング剤の使用で作品を完成させる工程を学習します。	2 ①	30				○	○	○		
○		スタイリストコース特化授業	スタイリストコース授業（カット理論・ブロー理論）を中心に行い、スタイリングから作品制作までを行います。	1 ③	15				○	○	○		
○		カラーリストコース特化授業	カラーリストコース授業（カラー理論・ハイルワーク）中心に行い、色選びから塗布技術、作品制作を行います。	1 ③	15				○	○	○		
○		ヘアメイクアーティストコース特化授業	ヘアメイクアーティストコース授業（アイロンワーク・アレンジ）を中心に行い、アレンジの基礎技術から作品制作までを行います。	1 ③	15				○	○	○		
○		校内コンテスト	3回の国家試験課題コンテストで集中力と国家試験合格レベルの技術力を身に付けます。	2 通	45				○	○	○		
○		0. designs教育 1	0. designs運営の準備として、サロンワークの基本となる接客技術の『お迎え～お見送り』ドアマン、レセプションのロープレを通して練習し検定試験をおこないます。	1 ③	15				○	○	○		
○		0. designs教育 2	0. designsでのサロンワークを通して実践的に学びます。サロンワーク検定は、1年次のルーキー検定に始まり、2年次のサロンワーク検定1～2をおこないます。	2 ① ②	30				○	○	○		
○		アジア・ビューティーコングレス	・ワインディング・ウイッグデザイン・マイクデザイン・アンダー23 レディスカット・アンダー23 メンズカットの部門内容にあわせ、制作していきます。	2 ① ②	30				○	○	○		
○		外部講師	現在活躍中の講師による授業で、現場の流行や技術・話術を学ぶことが出来、最先端の流行を取り入れることが出来ます。	2 ① ②	15		○		○	○	○		
○		カラー薬剤	カラー剤全般（ブリーチ・アルカリ・酸性・マニキュア等）の知識を学びます。パッティストやカラー剤の皮膚への影響やさまざまなカラー剤の特徴を学びます。	2 ① ②	30		○		○	○	○		
○		カラー理論・技術 3	カラー剤全てを使うことにより、かぶれない皮膚科学やその人に合う色身の提案などができるようになります。	2 ① ②	15				○	○	○		

<input type="radio"/>	ホイルワーク	ホイル（道具）の綺麗な折り方や・独特のコードの使い方（ウェービング）が出来るようになります。	2 ① ②	15				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
<input type="radio"/>	ヘアケアマイスター	ヘアケアマイスター テキストを使用し、ヘアケアの知識・毛髪診断が正しく出来るよう学習します。	2 ① ②	15		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
<input type="radio"/>	フォト撮影	照明の基礎、シューティング基礎を学びます。作品のイメージを表現する為に、光や影の変化により表現する方法を学びます。	2 ① ②	15			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
合計		42科目	2010単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①この学則で定める必要な時間数を履修していること。 ②教科科目の区分ごとに、その教科科目の3分の2以上 (実習を伴う教科科目は5分の4以上)出席していること。 ③学期末試験において、すべての課目が60点以上であること。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	13週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上 の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
大村美容アッシュ専門学校	平成4年3月31日	齊藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士	
衛生	美容専門課程	トップスタイリスト科	平成28文部科学省告示第12号	—	
学科の目的 本校が目指す教育は、卒業後すぐに即戦力となり、人材を育成することです。即戦力育成のためには、在学中から就業した時を想定した授業展開や深い専門知識の習得が不可欠です。 そのため、関係業界からの協力を得て、今現在の業界の動向や必要とされる能力や技術、それを実現させるための授業内容等についての意見や要望をいただいて参考にし、実践的な教育を展開していきます。					
修業年限	昼夜 2年	全課程の終了に必要な 修業年数及び単位数 ■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日	講義 2010時間	演習 585時間	実習 0時間
生徒検定員	生徒実員 80人	留学生数(生徒実員内) 26人	専任教員数 0人	兼任教員数 4人	総教員数 7人
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月20日～1月10日 ■学 年 末:3月20日～4月8日			卒業・進級 条件	必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして対処			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 町内行事への参加、学生自治組織・清掃ボランティア ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (例)平成28年度卒業生に該する平成29年5月1日時点の情報)
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) TAYA ■就職指導内容 就職ホームページによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導 など ■卒業者数 26 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 0 % ■その他 ・進学者数: 23人			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	資格・検定名 種 受験者数 合格者数 美容師国家試験 ② 26人 25人
	(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)			※種別欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に実践資格を取得するもの ③その他(民間検定等)	
	■中途退学者 0 名 ■中退率 0 % 平成28年4月1日時点において、在学者40名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者40名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、経済的問題、進路変更、病気			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等	
中途退学の現状	■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 日頃からの気配りや声掛けなどの強化、早めの気付きによる個別面談等の対応、カウンセラーによる面談				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象/非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有/無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)				
当該学科のホームページURL	URL: http://www.omula.com/				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の『就職率』の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行ない、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事半手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等です。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事を就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は含みません。就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」における「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しい業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

①本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案

②委員会で内容を検討

③意見や改善案を理事長に提出

④委員会からの意見・改善案を加味して、校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月12現在

名前	所属	任期	種別
桃島 里枝	ボディージュエリスト検定 (協会株式会社Crazy Carats)	H29.4.1～H31.3.31(2年)	①
田中 征洋	株式会社 ダム	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③
甲木 輝彦	ビューティービジョン協同組合	H29.4.1～H31.3.31(2年)	③
齊藤 ちづる	大村美容ファッショントレーニング専門学校 (校長)		
萩野 清美	大村美容ファッショントレーニング専門学校 (教務課長)		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。

(開催日時)

第1回 平成27年12月14日 13:00～15:00

第2回 平成28年5月15日 13:00～15:00

第3回 平成28年12月12日 13:00～15:00

第4回 平成29年5月15日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

◎ボディージュエリーについて

年々、ボディージュエリーが一般に浸透してきており、特にブライダルやパーティーなどの特別な場での需要が増えている就職した後に大きな武器になると思うので、就職先やお客様へ自信を持って提案していくよう学校としてしっかりと学生へ後押しの指導をおこなってほしい

◎オーデザインズ実習について

就職した後のアシスタントとして重要なシャンプー技術について、昨年から実習授業の時間以外にも放課後などを利用し、学校として技術向上の取り組みをおこなってくれているので、ぜひ継続して即戦力となりえる技術を身に付けさせてほしいアシスタントカルテの在り方、学生独自のクラス接客数対策、学生の店舗販売への教育と売上目標立てについて、卒業条件の見直しなども検討しながら、更なる改善を期待する

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コミュニケーション能力を持ち、顧客のニーズに合わせて柔軟に対応できる現場で即戦力となる社会人の早期育成をおこなうことを目的として、移りわりの激しい業界の現在の状況を基にした指導や審査をおこなっていましたが、自分に不足しているのは何なのか、実際に働く上で何が重要なのかを、学生自身に実体験として理解させることにより目標が明確になり、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます。

学生は、実際に企業に身を置き、実体験に基づいて指導を受けることにより、何が必要なスキルや能力なのかを学び、自分がすべき事は何かを自己分析して意識の向上を図ります。

学生は、実地研修レポートに目標とそのために取り組んだ事、企業から指導を受けた内容や自身の自己評価などを記入して、それを企業に提出して評価・アドバイスをもらった後、企業から学校へ提出されます。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実務実習	インターンシップという業界経験を通して、美容師の仕事を理解することにより、自分の将来の美容師像の明確化、就職意識の醸成を図ります。	ビーハイブデラックス、Daisy、Pla ss 他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にファンション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。	
1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム (ア)資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修 (イ)業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修 (ウ)企業が主催するコンテスト対策の授業 (エ)最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修	
2. 教員の指導力向上のためのプログラム (ア)組織のチームビルディングを形成するための研修 (イ)傾聴技法を学ぶ研修 (ウ)青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
◎九州地区理容師美容師養成施設教職員研修会 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.10.31～H28.11.1 主催 九州地区理容師美容師養成施設協議会 概要 コンテストのヘアーカラーリングについてや、アロマテラピーの効用と教育現場への活用について学び、実践に活かします	
◎美容師養成施設教員研修 美容技術理論、美容実習 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.6.6～H28.6.17 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 カット、ネイル、ヘアセッティング、マイク、まつ毛エクステ、エステ、パーマ、カラー等について、理論講義と実習を交えながら学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎美容師養成施設教員研修 衛生管理 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.8.22～H28.9.13 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 美容の関連法規、環境衛生、公衆衛生、感染症、消毒法、衛生管理技術などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎美容師養成施設教員研修 美容保健 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.9.26～H28.10.20 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 美容の関係法規、皮膚科学、人体の構造や機能、医学概論などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます	
◎まつげエクステ講師育成講習 参加 対象学科の教員1名 期間 H29.2.20～H29.2.25 主催 株式会社H&M 概要 まつげエクステについての知識、トラブルがおこる要因、指導する際の注意点などを実習もおこないながら学びます	
②指導力の修得・向上のための研修等	
◎新任教員研修 参加 対象学科の教員4名 期間 H28.8.2～H28.8.4 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会 概要 専修学校の在り方と授業実践、自己点検・評価の進め方、学内における救急処置 新任教員の指導・育成力を高めることを目標として、新任教員のための目標管理力や新任教員の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す	
◎アドラー心理学を活用する退学防止策とクラス経営術 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.8.18 主催 一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会 概要 アドラー心理学等を活用しながら具体的な対策防止策を学んで、今後のクラス運営に活かします	
◎教員のキャリアデザインワークショップ 参加 対象学科の教員2名 期間 H28.8.29～H28.8.31 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく	
◎未来ノートによるキャリア教育の考え方と進め方 参加 対象学科の教員1名	

<p>期間 H28.9.6 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 キャリア教育に未来ノートを活用することで、学生の仕事に対する考え方や必要な力を分かりやすく理解させ、学生自身が答えを導き出せることを目指します</p> <p>⑨九州地区理容師美容師養成施設教職員研修会 参加 対象学科の教員1名 期間 H28.10.31～H28.11.1 主催 九州地区理容師美容師養成施設協議会 概要 教育現場におけるトラブル・クレーム処理の対応、LGBTの学生への対応、教職員のコミュニケーションスキルなどについて学び、実践に活かします</p>					
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>⑩全国理容師美容師養成施設教職員研修会 参加 対象学科の教員3名 期間 H29.8.2～H29.8.4 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 理容美容教育の一層の充実をはかり、理容師美容師の資質の向上に寄与することを目的とする 大銀杏の実演、十二単の実演など</p> <p>⑪美容師養成施設教員研修 衛生管理 参加 対象学科の教員1名 期間 H29.8.21～H29.9.12 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 美容の関連法規、環境衛生、公衆衛生、感染症、消毒法、衛生管理技術などについて学び、その授業構築と実践について理解を深めます</p> <p>⑫美容師養成施設教員研修 香粧品化学 参加 対象学科の教員1名 期間 H30.1.15～H30.1.26 主催 公益社団法人日本理容美容教育センター 概要 香粧品の概論や原料、マイクアップ・頭皮頭髪・芳香など香粧品の用途別に化学的な観点からも踏まえて学び、その授業構築と実践について理解を深めます</p> <p>⑬指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>⑭教員のキャリアデザインワークショップ 参加 対象学科の教員1名 期間 H29.9.27～H29.9.29 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく</p> <p>⑮教育・指導力向上(ファシリテーションの効果を実感する体験学習 参加 対象学科の教員2名 期間 H29.8.1～H29.8.2 主催 一般社団法人職業教育キャリア教育財団 概要 体験から学ぶ方法としての「ラボラトリー形式の体験学習」について理解を深め、ファシリテーターとなるためにどんなマインドで知識とスキルを必要とするかを確認し、教育と指導力の向上を目指す</p> <p>⑯新任教員研修 参加 対象学科の教員2名 期間 平成29年8月1日～平成29年8月3日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 学生・教員のための実践心理、専修学校の制度、専修学校における制度と職業教育 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任教員のための目標管理力や新任教員の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す</p>					
<p>4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p> <p>(1)学校関係者評価の基本方針</p> <p>在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。</p> <p>そのために、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんの事、評価をする上で他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。</p> <p>(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td> ① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか </td> </tr> </tbody> </table>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目				
(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか				

(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事・給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭ 教員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に關し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多くいて違和感はないだろうが、タバコを吸った後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。今まで少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、

しつかりとした指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたら stylist の動きに違和感がある。「スタイリスト対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)

学生にもっと(一般的)サロンモデルをやって欲しい。

→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドレスコード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。

→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 輝彦	有限会社KATSUKI (ビューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

公表年月日:H29.9.28

URL: <http://www.omula.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知つてもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の目標及び計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム ・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	・収支報告書、財産目録
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

授業科目等の概要

(美容専門課程トップスタイルリスト科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規・制度	美容師免許の取得方法や美容室(サロン)の開設の届出などの美容師法を学習します。		30		○		○			○	
○			衛生管理	美容師と公衆衛生との結びつき、発展の歴史を理解して対人的な予防医学を学習します。		90		○		○			○	
○			美容保健	人体の構造と機能を基本的な概念で理解して、解剖学的表現の基本的用語と意味を学習します。		120		○		○			○	
○			美容の物理・化学	身近な物理現象についての基礎を理解して、自然に親しみ、尊重する態度を養うことを学習します。		90		○		○			○	
○			美容文化論	「美容」、「美しさ」などの言葉を理解し、美容と関わりが深い顔、化粧、髪について学習します。美容業の歴史を知り、これまでの美容の改革を学びます。		90		○		○		○		
○			美容技術理論	美容の基礎技術の理論を学び、国家試験課題とサロンの基礎知識の必要性を理解します。		120		○		○		○		
○			美容運営管理	美容業界をビジネスの視点から分析できる力を身につけます。サロンを持つときや店長になったときに役立つ知識とビジネス感覚を養います。		60				○	○		○	
○			美容実習(国家試験課題)	パーマネントウェーブの基礎理論を理解して、国家試験課題の合格レベルの技術が身に付く様になります。		615				○	○		○	
○			美容実習(シャンプー)	シャンプー技術(サイド・リア)を習得し、お客様に対して気持ちよいと言われるシャンプー技術を身に付けます。		105				○	○		○	
○			美容実習(実務実習)	美容師の仕事をしっかりと理解し、就業意識を高め一人前の社会人としてのマナーやサロンワークに必要なスキルを身につけます。		90				○		○	○	○
○			キャリア教育	業界を牽引する学生を育てる為、これから携わる社会や業界との接し方や自分の人生と将来の目標をイメージしていきます。		45		○		○		○		

○		メイク	メイクの基礎、メイクの応用、そしてメイクの提案ができるようになります。立体表現・カラー理解・グラデーションテクニックを更に深く学びます。	90				○	○	○		
○		ケミカル	ヘアケアの知識が豊富で毛髪診断を正しくおこない、それに対する処置・アドバイスが的確に出来るようになります。	15				○	○		○	
○		カラーリング	モデルによるワンメイクが出来るようになります。薬剤の成分、毛髪が染まる理論を理解します。	30				○	○		○	
○		ヘアアレンジ	ハーフアップや三つ編、ねじりなどを使って簡単にかわいくアレンジできる技術を身につけます。	60				○	○		○	
○		ベーシックカット	基礎技術工程を習得します。カットの基礎理論と頭の丸みを理解します。	30				○	○		○	
○		ブロー	WIGとモデルを交互に施術し、違いを理解します。外部講師の授業も並行して学びます。相モデル、外部モデルでのブローを行います。	60				○	○		○	
○		パーマ	サロンで必要となる様々なロッドでの平巻き、縦巻き、スパイラル巻きを習得後、根元巻き、中間巻き、毛先巻きを練習します。	30				○	○		○	
○		クリエイティブデザイン	カットの基礎を基に応用技術を学びます。ブロードライによる仕上げ、スタイリング剤の使用で作品を完成させる工程を理解します。	15				○	○		○	
○		サロンベーシック知識・技術	2年次では実際にカラー剤を使用してモデルの状態を何パターンも想定し練習します。その後はモデル及びO.designsでのゲストに要望を聞きながら、実践で学びます。	60				○	○		○	
○		美容モード	現在のモードを理解し、クラス全員で話し合いオリジナルのステージを創りあげることでコミュニケーション力、交渉力、情報収集力、創造力が高まりグンと成長します	60				○	○		○	
○		コンテスト対策	作品のテーマを理解し、モデル・ファッショントゥーヘア・メイクを考え企画書を作成します。	105				○	○		○	
○		国家試験対策	美容師国家試験の第1課題であるワインディングとオールウェーブセッティングの2つのスタイル構成をしっかり理解し国家試験合格レベルを目指します。	300				○	○		○	
合計				23科目							2010単位時間(単位)	

卒業要件及び履修方法			授業期間等	
①この学則で定める必要な時間数を履修していること。 ②教科科目の区分ごとに、その教科科目の3分の2以上 (実習を伴う教科科目は5分の4以上)出席していること。 ③学期末試験において、すべての課目が60点以上であること。			1学年の学期区分	3期
			1学期の授業期間	13週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方
法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地			
大村美容ファッション専門学校	平成4年3月31日	齊藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士		
衛生	美容専門課程	マイク・エステ科 (マイクロアーティストコース)	平成28文部科学省告示第12号	-		
学科の目的	本校が目指す教育は、卒業後すぐに即戦力となり、人材を育成することです。即戦力育成のためには、在学中から就業した時を想定した授業展開や深い専門知識の習得が不可欠です。 そのために、関係業界からの協力を得て、今現在の業界の動向や必要とされる能力や技術、それを実現させるための授業内容等についての意見や要望をいただいて参考にし、実践的な教育を展開していきます。					
修業年限	昼夜 2年	全課程の修了に必要な 修業年数又は単位数 昼間	講義 1710時間	演習 585時間 0時間	実習 1515時間 0時間	実験 0時間
生徒就定員	生徒実員 160人	留学生数(生徒実員内) 102人	専任教員数 0人	兼任教員数 7人	総教員数 8人	15人
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日	成績評価 卒業・進級 条件	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案			
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月20日～1月10日 ■学年末:3月20日～4月8日		必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして対処		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 町内行事への参加、学生自治組織、清掃ボランティア			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) (株)サラ、(株)オルテ、(株)uka (株)デコルテ、チャコット(株) ■就職指導内容 就職ホームページによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導など	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			
	■卒業者数 47 人 ■就職希望者数 46 人 ■就職者数 46 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 97.8 % ■その他 ・進学者数: 0人		資格・検定名 種 受験者数 合格者数 スカルプチャーリー検定 ③ バーソナルカラーリー検定 ③ ジェルネイル技能検定 ③			
	(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日時点の情報)		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
中途退学の現状	■中途退学者 9 名 平成28年4月1日時点において、在学者104名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者95名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、経済的問題、進路変更、病気	中退率 9.4 %	■自由記述欄 (例)認定学科の学生、卒業生のコンテスト入賞状況等			
	■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 日々からの気配りや声掛けなどの強化、早めの気付きによる個別面談等の対応、カウンセラーによる面談					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等减免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象/非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有/無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受賞年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)	URL: http://www.omula.com/				
当該学科のホームページURL						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1ヶ月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の『就職率』の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「资格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等です。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、札文等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯医学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生、卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しい業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

① 本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案

② 委員会で内容を検討

③ 意見や改善案を理事長に提出

④ 委員会からの意見・改善案を加味して、校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月12現在

名前	所属	任期	種別
石橋 寧	株式会社 ACRO	H29.4.1～H31.3.31	③
佐藤 武昌	株式会社 ぼたんや	H29.4.1～H31.3.31	③
稻葉 麻美	ML美容室	H29.4.1～H31.3.31	③
犬丸 明子	株式会社 テスワールド	H29.4.1～H31.3.31	③
岡山 寛	株式会社 アイリス	H29.4.1～H31.3.31	③
小林 治	日本ビューティーコーディネーター協会	H29.4.1～H31.3.31	①
佐藤 健	株式会社 パシフィクホスピタリティグループ	H29.4.1～H31.3.31	①
齐藤 ちづる	大村美容ファッショントークン専門学校（校長）	H29.4.1～H31.3.31	
田中 昭子	大村美容ファッショントークン専門学校（教務課長）	H29.4.1～H31.3.31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。

(開催日時)

第1回 平成27年12月14日 13:00～15:00

第2回 平成28年5月15日 13:00～15:00

第3回 平成28年12月12日 13:00～15:00

第4回 平成29年5月15日 13:00～15:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

◎オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、お客様が満足する技術の提供に加えて、その各技術や商品をコーディネイトするビューティーコーディネーターを育成するために以下の項目を、カリキュラムに盛り込んでほしい

①ホスピタリティとビジネススキル

②ビューティーコーディネーターの仕事

③ビューティーコーディネーターの美容知識

→カウンセリング実習の中に取り入れ、実践的に鍛錬していくことで、お客様の求めるものをトータルに提案できる力が学生に付いてきているのが実感できるので、今後も継続しておこなっていく

◎オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、ビジネススキル、特に敬語が使えていない。パーソナルな対応になると、形通りではダメで個性を活かして、笑顔の愛らしさや言葉遣いの丁寧さと崩し方、人懐っこさなどを表現としてできるようにケーススタディーと訓練で強化をしてほしい

→形をマスターした上で、自分自身をいかに表現するかを指導に取り入れている

◎オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、商品販売の目標は持たせるべきだが、売上の手前にカウンセリングの理解度・満足度が高くないと、仕事も面白くないし押し売りになるので、カウンセリングを充分に学ばせた後がよい

→まずカウンセリングの大事さと面白さを理解させることを念頭に指導をおこなっている

◎オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、カウンセリングで一方的に勧めてる、尋問調になつていい、会場外での立ち振る舞いがおろそか、敬語の使い方がいいかげん、お見送りが完全にできていない、といったことが

見受けられるので、特に気をつけて指導をお願いしたい
 →台本の暗記をやめて如何なるケースでも対応できるようにする、会話の中から質問する項目を選択させる、などをおこない改善を図っている

◎メイク実習について、メイク実習の中でのモデルを使ったイベント「メイク・メイク・メイク」までの授業進行について、以下の流れを提案したい

- ①当社商品の展開を知る
- ②当社の商品コンセプトを知る
- ③今期トレンド理解
- ④今期マークコンセプト・販売戦略の理解
- ⑤実際のモデルを使ってのマーク実技
- ⑥モデルによるパフォーマンス

→この進行を取り入れ、イベントまでの途中過程の重要性を学生も理解できており、授業に充実感が感じられる

◎コフレ実習(クライアント実習)について、カウンセリングでマナーの部分が形式に流れてきているくらいを感じるので、そのあたりを丁寧に指導する必要を感じる

→カウンセリング姿勢やお茶の出し方、階段の上り下りまで細部に渡って再指導をしている

●コフレ実習(クライアント実習)について、モデルハントを経験させるのはよい事だが、ノルマ的印象になると一生顧客開拓が苦手になるので、目的を充分に理解させてからおこなってほしい

→ただ数値達成のためにやらせるのではなく、目的についてを充分に理解させて前向きな気持ちでおこなえるように指導している

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現するために、流行や変化の激しい美容・メイク・エステ業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の美容・メイク・エステ業界において実際に必要とされている技術や知識を企業等に実践的に教授してもらうことで、即戦力となる技術の習得を図るとともに、高い職業意識を持つた人材の育成をおこないます。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習・演習を企業等と連携しておこなうにあたって、基本的に以下の流れにそっておこなっています。

①学校の方針や担当してもらう実習・演習の内容、成果目標等を企業等に伝えて、よく理解をしてもらった上で、契約書を締結

②実習・演習の実施前に、担当教員と企業等とで授業科目の全体のスケジュールや到達目標を説明し、講師がおこなう実習内容の詳細や到達目標と、その後の担当教員の指導方法などについて摺り合わせをおこなう

③企業等が授業をおこない、担当教員は授業運営のサポートをしながら、自身も授業を受けて技術向上などに努める

④授業が修了する際に、技術テストなどの設定していた評価項目により、企業等に学生の評価をしてもらい、それを基に担当教員が成績評価と科目修了の認定をする

⑤授業の一部のみを企業がおこなう科目の際は、企業等に学生の評価をしてもらうと合わせて、最終的な学修成果の評価指標などについての助言をもらい、それを踏まえて担当教員が成績評価と科目修了の認定をする

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
メイク実習 (ウォーキング)	骨格の理解や陰影、立体を表現する技術を学び、チャームアップメイクやコンプレックスを解消するメイクテクニックなどから「似合わせ」を理解し、技術の幅を広げます	株式会社オールサイド
作品作り	今期のトレンド傾向を分析します。モデルに合わせたテーマを設定し、イメージをカラージュと企画書で表現して、バランスを考えオリジナル作品を制作します	Office KC
撮影メイク	照明の基本を学習し、シューティングの基本からテーマに合わせて作品をつくり、企画書提案やカラージュ作成を通じて表現方法を深めます	株式会社ボンインパクト
アロマテラピー	香料の種類を学び、フレグランスの種類と特徴や心身に働きかける芳香療法を学びます	日本アロマ環境協会

ネイル	手や足の爪の構造や働き、病気について学びます 相モデルでマニキュアの練習を繰り返し、あらゆるテクニックを習得します	株式会社Crazy Carts
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にファッション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。		
1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム		
(ア)資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修		
(イ)業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修		
(ウ)企業が主催するコンテスト対策の授業		
(エ)最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修		
2. 教員の指導力向上のためのプログラム		
(ア)組織のチームビルディングを形成するための研修		
(イ)傾聴技法を学ぶ研修		
(ウ)青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
⑤インダーナショナルメイクアップ研修		
対象 対象学科の全ての専任教員		
期間 平成27年10月4日		
主催 九州理容美容学校協会		
概要 九州の美容学校の教員向けに九州理容美容学校協会が主催して、東京で活躍するメイクアップアーティスト柄木進氏の研修で、輝くメイクアップの考え方とそのテクニックを学習し、メイク実習の授業で指導に活かします		
⑥ビューティーコーディネーター研修		
対象 対象学科の専任教員2名		
期間 平成27年11月9日		
主催 日本ビューティーコーディネーター協会		
概要 現在、業界において需要が高まっているビューティーコーディネーターについての教育を学生に反映させるため、最新の動向とビューティーコーディネーターが必要とする知識や技能、検定についてを学習し、コーディネーター学などの授業で指導に活かします		
⑦トータルエステティックアドバイザー検定研修		
対象 対象学科の専任教員1名		
期間 平成27年11月16日		
主催 日本エステティック協会		
概要 エステティックのプロとして実務経験を活かし、業界をリードする指導的立場を担うエステティシャンであるトータルエステティックアドバイザーの認定を受けるべくエステの実技を学習し、エステ実習の授業で指導に活かします		
⑧エステティック研修		
対象 対象学科の専任教員1名		
期間 平成27年11月16日		
主催 株式会社滝川		
概要 美容・エステの機器メーカーである滝川が業界向けにおこなっているエステティックセミナーを受講してエステ技術とサロンについて学習し、つづく実習の授業で指導して頂きます		
⑨指導力の修得・向上のための研修等		
⑩新任指導力研修		
対象 対象学科の専任教員2名		
期間 平成27年7月30日、31日		
主催 職業教育キャリア教育財団		
概要 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任指導育成のための目標管理力や新任の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す		
⑪教育・指導力向上研修		
対象 対象学科の専任教員2名		
期間 平成27年8月4日～6日		
主催 職業教育キャリア教育財団		
概要 教員にとって必要な基礎的知識の習得を目的に、「専修学校における職業教育」「専修学校教育のあり方と授業実践」「専修学校と制度」「学生・教員のための実践心理」の項目について学び、学生への指導に活かします。		
⑫教育・指導力向上研修		
対象 対象学科の専任教員1名		
期間 平成27年11月17日、18日		
主催 職業教育キャリア教育財団		
概要 教育活動におけるプロセスを大切にした学生との関わり方や観察力の必要性を感じる上で、教員自らがファシリテーションを体験して、その体験で得た効果の実感することを通じて、自らがファシリテーターとなるためにどのようなマインドセットで基礎的な知識とスキルを必要とするか、まずは確認することで、今後の教育・指導力向上に向けた学習のきっかけとする		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
⑤インダーナショナルメイクアップ研修		
対象 対象学科の全ての専任教員		
期間 平成28年9月26日		
主催 九州理容美容学校協会		
概要 九州の美容学校の教員向けに九州理容美容学校協会が主催して、メイクアップの顔全体のバランス、眉のイメージバランス、カラーイメージを学習し、メイク実習の授業で指導に活かします		
⑥ビューティーコーディネーター研修		
対象 対象学科の専任教員1名		
期間 平成28年11月7日		
主催 日本ビューティーコーディネーター協会		
概要 現在、業界において需要が高まっているビューティーコーディネーターについての教育を学生に反映させるため、最新の動向とビューティーコーディネーターが必要とする知識や技能、検定についてを学習し、コーディネーター学などの授業で指導に活かします		

①ロミロミ実技研修
対象 対象学科の全ての専任教員

期間 平成28年11月16日、17日

主催 株式会社ロミロミ

概要 取り扱うサロンが増えているハワイに古くから伝わる伝統的な癒しの技術であるロミロミについての知識や施術効果、技術を実技形式で学習し、コフレ実習での授業で指導に活かします

②指導力の修得・向上のための研修等

③体系的カリキュラム・シラバス作成研修

対象 対象学科の専任教員1名

期間 平成28年7月21日、22日

主催 職業教育キャリア教育財団

概要 より学生に分かりやすく効率的に学べるカリキュラム・シラバスを作成する手法としてのインストラクショナル・デザイン(ID)とは何かを学び、これを用いてカリキュラム・シラバスを設計・開発できるようにする。

④教育・指導力向上(ファシリテーションの効果を実感する体験学習)研修

対象 対象学科の専任教員1名

期間 平成28年8月2日～4日

主催 職業教育キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会

概要 教員にとって必要な基礎的知識の習得を目的に、「専修学校における職業教育」「専修学校教育のあり方と授業実践」「専修学校と制度」「学生・教員のための実践心理」の項目について学び、学生への指導に活かします。

⑤学級経営・学生対応研修

対象 対象学科の専任教員2名

期間 平成28年8月25日、26日

主催 職業教育キャリア教育財団

概要 これまでの教科担当、クラス指導の経験を振り返り、自分の強みと弱みを再確認し、今後学校の中核として業務を遂行できる人材になることを目標として、そのために学生に対する「全体指導」「個別指導」の手法を棚卸して、学生への効果的な動機付けの手法や、所属する学科の運営方法を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。

そのため、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんのこと、評価をする上で他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2)学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4)学修成果	① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多くて違和感はないだろうが、タバコを吸った後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。
→今まで少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、
しっかりと指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたらスタイリストの動きに違和感がある。「スタイリスト対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)
学生にもっと(一般的)サロンモデルをやって欲しい。

→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドレスコード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。
→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 漢彦	有限会社KATSUKI (ピューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表年月日:H29.9.28
URL: <http://www.omula.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知つてもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none">・学校の目標及び計画、経営方針、特色・校長名、所在地、連絡先等・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none">・収容定員、在学学生数・カリキュラム・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等)・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none">・教職員数(職名別)・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none">・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none">・学校行事への取組状況・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none">・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none">・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等)・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none">・収支報告書、財産目録
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none">・自己評価・学校関係者評価の結果・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

授業科目等の概要

(マイクアップ専門課程マイク・エステ科(マイクアップアーティストコース))平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実習・実技	校内	校外	専任	兼任
○			キャリアデザイン I	働く事の目的や、学生と社会人との違いを理解し、職業観や人生観について考えます。就職活動を円滑に行なうための書類作成や応募するまでの手順、社会人マナーや基本的ルールを学習します	1通	60		○			○		○	
○			マイク実習 I	各課題の合格基準を明確に捉え、マイクアップ合格範囲と時間配分を常に意識できるように、個別アドバイスや検定ノートを使用しながら、骨格を活かしたマイクの基本を学習します	1通	240				○	○		○	
○			エステ実習 I	フェイシャルエステティックの目的、効果、筋肉や骨格の名称などの理論を学び、マッサージにおける基本手技である六法を習得します	1通	90				○	○		○	
○			マイク理論 I	化粧の始まりから取り扱いまで、マイクアップ知識全体を学習します。また、骨格や顔の部位の名称、化粧品成分やクレーム対応時の接客法まで学習します	1通	60		○			○		○	
○			エステ理論 I	エステティックの概念、領域、歴史、カウンセリングの基本的な考え方やエステティシャンの姿勢を理解し、衛生管理や経営者に求められる資質についても学習します	1通	15		○			○		○	
○			解剖生理 I	身体は細胞の集合体であり、複雑な構造をしていることを学び、さらに器官ごとに細かく、それぞれの仕組みと働きを学びます	1通	15		○			○		○	
○			ネイル I	ネイルケアの歴史を学び、手や足の爪の構造や働き、病気について学びます 相モデルでマニキュアの練習を繰り返し、あらゆるテクニックを習得します	1通	90				○	○		○	○
○			ヘアアレンジ I	ヘアアイロン、ホットカーラーなどの美容器具の使用方法を学び、様々なアップスタイルを軸に、ヘアアレンジの基本を学びます	1通	45				○	○		○	
○			ファッショニ I	ファッショニ史を学び、各時代の特徴を理解します また、ジャンルを理解する事で、ファストファッショニとコレクションの違いを学習し、トータルバランス力を養います	1通	15		○			○		○	

○		パーソナルカラー I	色彩学の基本をもとに色の成り立ちを学び、色の持つ心理的効果と配色の基本を学びます	1 通	30	○	○	○	○
○		アロマテラピー I	香料の種類を学び、フレグランスの種類と特徴や心身に働きかける芳香療法を学びます	1 通	30	○	○	○	○
○		ボディジュエリー	ボディージュエリーで使用する教材の扱い方から基礎理論を深く学び、ボディーストーンやカウンセリング理論からアフターカウンセリングまで学習して、カラーアレンジの理解を深めます	1 通	15	○	○	○	
○		コーディネーター学	ビューティーコーディネーター検定3級取得を目指し、生産性を高めるレセプションワークやビジネススキル、会話力や接客の基本的マナーとともにヘア知識を学習し、具体的な提案力を身につけます	1 通	30	○	○	○	
○		キャリアデザイン II	学生と社会人の違いを理解して、就職する目的を学習します。キャリアプランを明確にし、自己理解を深め、社会人マナーや基本的ルール、目標や就職へのスケジュール管理などを学びます	2 通	45	○	○	○	
○		インターンシップ	サロンワークに参加して、一連の業務を知ることで必要なスキルを理解し、実習後にレポートにまとめ、それを現場からフィードバックしてもらってスキルアップを図ります	2 通	30	○	○	○	○
○		デッサン	物を描くことで陰影の基本を学んで顔の立体感を理解し、観察力を高めて、メイクアップのセンスに磨きをかけます	1 通	15	○	○	○	
○		作品作り	4大コレクションの検証を行い、今期のトレンド傾向を分析します。モデルに合わせたテーマを設定し、イメージをコラージュと企画書で表現して、バランスを考えてオリジナル作品を制作します	1 通	60	○	○	○	○
○		ヘアアレンジ II	アレンジの基礎になるピン留めや編みこみの技術を理解してから、アップスタイルやカールスタイルなどの応用技術やアイロンテクニックなどのスタイリングを実践的に学びます	1 2 通	60	○	○	○	
○		ネイル II	基本のジェルネイルを基にエクステンション技術やフレンチネイル技術などを学び、細かな処理やお手入れについてアドバイスができるようになります	1 2 通	90	○	○	○	
○		実践型研修	化粧品会社の本社や教育施設を訪問して企業の特徴や求められる人材等を理解し、業界全体の動向をうかがうことで、入社後のキャリアアップに繋げます	2 通	15	○	○	○	
○		0. designs実習	店舗型実習施設で授業をおこない、お迎えやカウンセリング、スキンケアアドバイス、希望メイクの聞き出し、メイクの提案から施術、販売、お見送りまでの一連の流れを学習します	2 通	75	○	○	○	

○	メイク実習Ⅱ	骨格の理解や陰影、立体を表現する技術を学び、チャームアップメイクやコンプレックスを解消するメイクテクニックなどから「似合わせ」を理解し、技術の幅を広げます	2 通	375				○	○	○	○		
○	化粧品ブランドメイク	化粧品業界マップの作成から業界理解を深め、ヘア・メイク・ファッショントータルでの作品作りを学び、製品から広がるイメージコンセプトを理解して作品に表現します	2 通	30				○	○	○			
○	トレンドメイク	今の社会情勢を理解し、完成を高めてトータルバランスを追及した作品を創り上げます。ヘアとメイクアップのバランスを学び、クオリティの高い作品作りを目指します	2 通	30				○	○	○			
○	スカルプチャーメイク検定	骨格にあわせるメイク技術を学んで、骨格を活かしながらテーマ課題をメイクアップで表現し、作品を完成させます	2 通	30				○	○	○			
○	ファッショントレンドⅡ	ファッショントレンドについて、社会情勢からトレンド分析をおこない、メイクとファッショントを含めたトータルでの作品企画を立案し、イメージ性の表現を最大限に高めます	2 通	15				○	○	○			
○	撮影メイク	照明の基本を学習し、シーティングの基本からテーマに合わせて作品をつくり、企画書提案やコラージュ作成を通じて表現方法を深めます	2 通	60				○	○	○	○		
○	メイク理論Ⅱ	皮膚の構造をより詳しく学び、スキンケアの方法や、栄養・睡眠についてなど、総合的な問題点を抽出して提案を考えます。パーソナルカラーを活かして似合うメイクの提案を学習します。	2 通	30		○		○	○	○			
○	コーディネーター学Ⅱ	トータルビューティーをお客様にコーディネートするためのカウンセリングや接客学などを学んで対人スキルを学習します	2 通	45				○	○	○			
合計		29科目	2010単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①この学則で定める必要な時間数を履修していること。 ②教科科目の区分ごとに、その教科科目の3分の2以上 (実習を伴う教科科目は5分の4以上)出席していること。 ③学期末試験において、すべての課目が60点以上であること。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	13週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
大村美容ファッション専門学校	平成4年3月31日	斎藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士	
衛生	美容専門課程	マイク・エステ科 (ビューティードバイザーコース)	平成28年文部科学省 告示第12号	—	
学科の目的	本校が目指す教育は、卒業後すぐに即戦力となり、人材を育成することです。即戦力育成のためには、在学中から就業した時を想定した授業展開や深い専門知識の習得が不可欠です。 そのため、関係業界からの協力を得て、今現在の業界の動向や必要とされる能力や技術、それを実現させるための授業内容等についての意見や要望をいただいて参考にし、実践的な教育を展開してまいります。				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 修業年数又は修業 時間	講義	演習	実習 実験 実技
2年	昼間	1710時間	585時間	0時間	1515時間 0時間 0時間
生徒定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	102人	0人	7人	8人	15人
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月20日～1月10日 ■学 年末:3月20日～4月8日			卒業・進級 条件	必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして対処			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 町内行事への参加、学生自治組織、清掃ボランティア ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に該する平成29年5月1日時点の情報)
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) (株)イプサ、ELG(株)、(株)アルビオン、資生堂ジャパン(株) 日本ロレアル(株) ■就職指導内容 就職ホームページによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導 など			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■資格・検定名 種 受験者数 合格者数 スカルプチャーレベル ③ パーソナルカラーレベル ③ ジェルネイル技能検定 ③
	■卒業者数 47 人 ■就職希望者数 46 人 ■就職者数 46 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 97.8 % ■その他 ・進学者数: 0人				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)
	(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日時点の情報)				■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学 の現状	■中途退学者 9 名 平成28年4月1日時点において、在学者104名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者95名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、経済的問題、進路変更、病気			■中退率 9.4 %	
	■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 日頃からの気配りや声掛けなどの強化、早めの気付きによる個別面談等の対応、カウンセラーによる面談				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入				
	■専門実践教育訓練給付: 給付対象○非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載				
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価年度、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)				
当該学科の ホームページ URL	URL: http://www.omula.com/				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄してください。

2. 就職率等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定期の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定期の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①就職率については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行って、大学等卒業後直後に就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などがされた者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数を占める割合をいいます。

②「就職」とは給料・賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えは、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しい業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

①本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案

②委員会で内容を検討

③意見や改善案を理事長に提出

④委員会からの意見・改善案を加味して、校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年10月12現在

名 前	所 属	任期	種別
石橋 寧	株式会社 ACRO	H29.4.1～H31.3.31	③
佐藤 武昌	株式会社 ぽたんや	H29.4.1～H31.3.31	③
稻葉 麻美	ML美容室	H29.4.1～H31.3.31	③
犬丸 明子	株式会社 テスワールド	H29.4.1～H31.3.31	③
岡山 寛	株式会社 アイリス	H29.4.1～H31.3.31	③
小林 治	日本ビューティーコーディネーター協会	H29.4.1～H31.3.31	①
佐藤 健	株式会社 パシフィクホスピタリティーグループ	H29.4.1～H31.3.31	①
斎藤 ちづる	大村美容ファッショントレーニング専門学校（校長）	H29.4.1～H31.3.31	
田中 昭子	大村美容ファッショントレーニング専門学校（教務課長）	H29.4.1～H31.3.31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。

(開催日時)

第1回 平成27年12月14日 13:00～15:00

第2回 平成28年5月15日 13:00～15:00

第3回 平成28年12月12日 13:00～15:00

第4回 平成29年5月15日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、お客様が満足する技術の提供に加えて、その各技術や商品をコーディネイトするビューティーコーディネーターを育成するために以下の項目を、カリキュラムに盛り込んでほしい

①ホスピタリティとビジネススキル

②ビューティーコーディネーターの仕事

③ビューティーコーディネーターの美容知識

→カウンセリング実習の中に取り入れ、実践的に鍛錬していくことで、お客様の求めるものをトータルに提案できる力が学生に付いてきているのが実感できるので、今後も継続しておこなっていく

②オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、ビジネススキル、特に敬語が使えていない。パーソナルな対応になると、形通りではダメで個性を活かして、笑顔の愛らしさや言葉遣いの丁寧さと崩し方、人懐っこさなどを表現としてできるようにケーススタディーと訓練で強化をしてほしい

→形をマスターした上で、自分自身をいかに表現するかを指導に取り入れている

③オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、商品販売の目標は持たせるべきだが、売上の手前にカウンセリングの理解度・満足度が高くないと、仕事も面白くないし押し売りになるので、カウンセリングを充分に学ばせた後がよい

→まずカウンセリングの大手さと面白さを理解させることを念頭に指導をおこなっている

④オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、カウンセリングで一方的に勧めてる、尋問調になつてゐる、会場外での立ち振る舞いがおろそか、敬語の使い方がいいかげん、お見送りが完全にできていない、といったことが

見受けられるので、特に気をつけて指導をお願いしたい
→台本の暗記をやめて如何なるケースでも対応できるようにする、会話の中から質問する項目を選択させる、などをおこない改善を図っている

◎メイク実習について、メイク実習の中でのモデルを使ったイベント「メイク・メイク・メイク」までの授業進行について、以下の流れを提案したい
 ①当社商品の展開を知る
 ②当社の商品コンセプトを知る
 ③今期トレンド理解
 ④今期メークコンセプト・販売戦略の理解
 ⑤実際のモデルを使ってのメーク実技
 ⑥モデルによるパフォーマンス
 →この進行を取り入れ、イベントまでの途中過程の重要性を学生も理解できており、授業に充実感が感じられる

◎コフレ実習(クライアント実習)について、カウンセリングでマナーの部分が形式に流れてきているくらいを感じるので、そのあたりを丁寧に指導する必要を感じる
 →カウンセリング姿勢やお茶の出し方、階段の上り下りまで細部に渡って再指導をしている

●コフレ実習(クライアント実習)について、モデルハントを経験させるのはよい事だが、ノルマ的印象になると一生顧客開拓が苦手になるので、目的を充分に理解させてからおこなってほしい
 →ただ数値達成のためにやらせるのではなく、目的についてを充分に理解させて前向きな気持ちでおこなえるように指導している

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現するために、流行や変化の激しい美容・メイク・エステ業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の美容・メイク・エステ業界において実際に必要とされている技術や知識を企業等に実践的に教授してもらうことで、即戦力となる技術の習得を図るとともに、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習・演習を企業等と連携しておこなうにあたって、基本的に以下の流れにそっておこなっています。

- ①学校の方針や担当してもらう実習・演習の内容、成果目標等を企業等に伝えて、よく理解をしてもらった上で、契約書を締結
- ②実習・演習の実施前に、担当教員と企業等とで授業科目の全体のスケジュールや到達目標を説明し、講師がおこなう実習内容の詳細や到達目標と、その後の担当教員の指導方法などについて摺り合わせをおこなう
- ③企業等が授業をおこない、担当教員は授業運営のサポートをしながら、自身も授業を受けて技術向上などに努める
- ④授業が修了する際に、技術テストなどの設定していた評価項目により、企業等に学生の評価をしてもらい、それを基に担当教員が成績評価と科目修了の認定をする
- ⑤授業の一部のみを企業がおこなう科目の際は、企業等に学生の評価をしてもらうと合わせて、最終的な学修成果の評価指標などについての助言をもらい、それを踏まえて担当教員が成績評価と科目修了の認定をする

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
メイク実習 (ウォーキング)	骨格の理解や陰影、立体を表現する技術を学び、チャームアップメイクやコンプレックスを解消するメイクテクニックなどから「似合わせ」を理解し、技術の幅を広げます	株式会社オールサイド
作品作り	今期のトレンド傾向を分析します。モデルに合わせたテーマを設定し、イメージをカラージュと企画書で表現して、バランスを考えてオリジナル作品を作成します	Office KC
撮影メイク	照明の基本を学習し、シューイングの基本からテーマに合わせて作品をつくり、企画書提案やカラージュ作成を通じて表現方法を深めます	株式会社ボンインパクト
アロマテラピー	香料の種類を学び、フレグランスの種類と特徴や心身に働きかける芳香療法を学びます	日本アロマ環境協会

ネイル	手や足の爪の構造や働き、病気について学びます 相モデルでマニキュアの練習を繰り返し、あらゆるテクニックを習得します	株式会社Crazy Carts
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にファッション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。		
<p>1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム</p> <p>(ア)資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修</p> <p>(イ)業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修</p> <p>(ウ)企業が主催するコンテスト対策の授業</p> <p>(エ)最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修</p> <p>2. 教員の指導力向上のためのプログラム</p> <p>(ア)組織のチームビルディングを形成するための研修</p> <p>(イ)傾聴技法を学ぶ研修</p> <p>(ウ)青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修</p>		
(2)研修等の実績		
<p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>◎インダーナショナルメイクアップ研修</p> <p>対象 対象学科の全ての専任教員</p> <p>期間 平成27年10月4日</p> <p>主催 九州理容美容学校協会</p> <p>概要 九州の美容学校の教員向けに九州理容美容学校協会が主催して、東京で活躍するメイクアップアーティスト栢木進氏の研修で、輝くメイクアップの考え方とそのテクニックを学習し、メイク実習の授業で指導に活かします</p> <p>◎ビューティーコーディネーター研修</p> <p>対象 対象学科の専任教員2名</p> <p>期間 平成27年11月9日</p> <p>主催 日本ビューティーコーディネーター協会</p> <p>概要 現在、業界において需要が高まっているビューティーコーディネーターについての教育を学生に反映させるため、最新の動向とビューティーコーディネーターが必要とする知識や技能、検定についてを学習し、コーディネーター学などの授業で指導に活かします</p> <p>◎トータルエステティックアドバイザー検定研修</p> <p>対象 対象学科の専任教員1名</p> <p>期間 平成27年11月16日</p> <p>主催 日本エステティック協会</p> <p>概要 エステティックのプロとして実務経験を活かし、業界をリードする指導的立場を担うエステティシャンであるトータルエステティックアドバイザーの認定を受けるべくエステの実技を学習し、エステ実習の授業で指導に活かします</p> <p>◎エステティック研修</p> <p>対象 対象学科の専任教員1名</p> <p>期間 平成27年11月16日</p> <p>主催 株式会社滝川</p> <p>概要 美容・エステの機器メーカーである滝川が業界向けにおこなっているエステティックセミナーを受講してエステ技術とサロンについて学習し、実習の授業で指導に活かします</p> <p>◎指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>◎新任教員指導力研修</p> <p>対象 対象学科の専任教員2名</p> <p>期間 平成27年7月30日、31日</p> <p>主催 職業教育キャリア教育財団</p> <p>概要 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任教員育成のための目標管理力や新任教員の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを自指す</p> <p>◎教育・指導力向上研修</p> <p>対象 対象学科の専任教員2名</p> <p>期間 平成27年8月4日～6日</p> <p>主催 職業教育キャリア教育財団</p> <p>概要 教員にとって必要な基礎的知識の習得を目的に、「専修学校における職業教育」「専修学校教育のあり方と授業実践」「専修学校と制度」「学生・教員のための実践心理」の項目について学び、学生への指導に活かします。</p> <p>◎教育・指導力向上研修</p> <p>対象 対象学科の専任教員1名</p> <p>期間 平成27年11月17日、18日</p> <p>主催 職業教育キャリア教育財団</p> <p>概要 教育活動におけるプロセスを大切にした学生との関わり方や観察力の必要性を感じる上で、教員自らがファシリテーションを体験して、その体験で得た効果の実感することを通じて、自らがファシリテーターとなるためにどのようなマインドで基礎的な知識とスキルを必要とするか、まずは確認することで、今後の教育・指導力向上に向けた学習のきっかけとする</p> <p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>◎インダーナショナルメイクアップ研修</p> <p>対象 対象学科の全ての専任教員</p> <p>期間 平成28年9月26日</p> <p>主催 九州理容美容学校協会</p> <p>概要 九州の美容学校の教員向けに九州理容美容学校協会が主催して、メイクアップの顔全体のバランス、眉のイメージバランス、カラーメージを学習し、メイク実習の授業で指導に活かします</p> <p>◎ビューティーコーディネーター研修</p> <p>対象 対象学科の専任教員1名</p> <p>期間 平成28年11月7日</p> <p>主催 日本ビューティーコーディネーター協会</p> <p>概要 現在、業界において需要が高まっているビューティーコーディネーターについての教育を学生に反映させるため、最新の動向とビューティーコーディネーターが必要とする知識や技能、検定についてを学習し、コーディネーター学などの授業で指導に活かします</p>		

◎ロミロミ実技研修

対象 対象学科の全ての専任教員

期間 平成28年11月16日、17日

主催 株式会社ロミロミ

概要 取り扱うサロンが増えているハワイに古くから伝わる伝統的な癒しの技術であるロミロミについての知識や施術効果、技術を実技形式で学習し、コレ実習での授業で指導に活かします

②指導力の修得・向上のための研修等

◎体系的カリキュラム・シラバス作成研修

対象 対象学科の専任教員1名

期間 平成28年7月21日、22日

主催 職業教育キャリア教育財団

概要 より学生に分かりやすく効率的に学べるカリキュラム・シラバスを作成する手法としてのインストラクショナル・デザイン(ID)とは何かを学び、これを用いてカリキュラム・シラバスを設計・開発できるようにする。

◎教育・指導力向上(ファシリテーションの効果を実感する体験学習)研修

対象 対象学科の専任教員1名

期間 平成28年8月2日～4日

主催 職業教育キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会

概要 教員にとって必要な基礎的知識の習得を目的に、「専修学校における職業教育」「専修学校教育のあり方と授業実践」「専修学校と制度」「学生・教員のための実践心理」の項目について学び、学生への指導に活かします。

◎学級経営・学生対応研修

対象 対象学科の専任教員2名

期間 平成28年8月25日、26日

主催 職業教育キャリア教育財団

概要 これまでの教科担当、クラス指導の経験を振り返り、自分の強みと弱みを再確認し、今後学校の中核として業務を遂行できる人材になることを目標として、そのために学生に対する「全体指導」「個別指導」の手法を棚卸して、学生への効果的な動機付けの手法や、所属する学科の運営方法を学ぶ。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。

そのため、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんの事、評価をする上でその他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標・育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2)学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事・給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4)学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③退学率の低減が図られているか ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥学生の生活環境への支援は行われているか ⑦保護者と適切に連携しているか ⑧卒業生への支援体制はあるか ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多くて違和感はないだろうが、タバコを吸った後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。
→今まで少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、
しっかりと指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたら stylist の動きに違和感がある。「スタイリスト対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)
学生にもっと(一般的)サロンモデルをやって欲しい。

→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドレスコード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。

→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所 属	任期	種別
甲木 漢彦	有限会社KATSUKI (ピューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表年月日:H29.9.28
URL: <http://www.omula.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知つてもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none">・学校の目標及び計画、経営方針、特色・校長名、所在地、連絡先等・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none">・収容定員、在学学生数・カリキュラム・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等)・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none">・教職員数(職名別)・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none">・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none">・学校行事への取組状況・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none">・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none">・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等)・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none">・収支報告書、財産目録
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none">・自己評価・学校関係者評価の結果・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

授業科目等の概要

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザイン I	働く事の目的や、学生と社会人との違いを理解し、職業観や人生観について考えます。就職活動を円滑に行なうための書類作成や応募するまでの手順、社会人マナーや基本的ルールを学習します	1通	60		○		○		○		
○			メイク実習 I	各課題の合格基準を明確に捉え、メイクアップ合格範囲と時間配分を常に意識できるように、個別アドバイスや検定ノートを使用しながら、骨格を活かしたメイクの基本を学習します	1通	240				○	○		○	
○			エステ実習 I	フェイシャルエステティックの目的、効果、筋肉や骨格の名称などの理論を学び、マッサージにおける基本手技である六法を習得します	1通	90				○	○		○	
○			メイク理論 I	化粧の始まりから取り扱いまで、メイクアップ知識全体を学習します。また、骨格や顔の部位の名称、化粧品成分やクレーム対応時の接客法まで学習します	1通	60		○		○		○		
○			エステ理論 I	エステティックの概念、領域、歴史、カウンセリングの基本的な考え方やエステティシャンの姿勢を理解し、衛生管理や経営者に求められる資質についても学習します	1通	15		○		○		○		
○			解剖生理 I	身体は細胞の集合体であり、複雑な構造をしていることを学び、さらに器官ごとに細かく、それぞれの仕組みと働きを学びます	1通	15		○		○			○	
○			ネイル I	ネイルケアの歴史を学び、手や足の爪の構造や働き、病気について学びます 相モデルでマニキュアの練習を繰り返し、あらゆるテクニックを習得します	1通	90				○	○		○	○
○			ヘアアレンジ I	ヘアアイロン、ホットカーラーなどの美容器具の使用方法を学び、様々なアップスタイルを軸に、ヘアアレンジの基本を学びます	1通	45				○	○		○	
○			ファッショニ I	ファッション史を学び、各時代の特徴を理解します また、ジャンルを理解する事で、ファストファッションとコレクションの違いを学習し、トータルバランス力を養います	1通	15		○		○		○		

○		パーソナルカラー I	色彩学の基本をもとに色の成り立ちを学び、色の持つ心理的効果と配色の基本を学びます	1通	30	○	○	○	○
○		アロマテラピー I	香料の種類を学び、フレグランスの種類と特徴や心身に働きかける芳香療法を学びます	1通	30		○ ○	○	○ ○
○		ボディジュエリー	ボディージュエリーで使用する教材の扱い方から基礎理論を深く学び、ボディーストーンやカウンセリング理論からアフターカウンセリングまで学習して、カラーアレンジの理解を深めます	1通	15		○ ○	○	
○		コーディネーター学	ビューティーコーディネーター検定3級取得を目指し、生産性を高めるレセプションワークやビジネススキル、会話力や接客の基本的マナーとともにヘア知識を学習し、具体的な提案力を身につけます	1通	30	○	○	○	
○		キャリアデザイン II	学生と社会人の違いを理解して、就職する目的を学習します。キャリアプランを明確にし、自己理解を深め、社会人マナーや基本的ルール、目標や就職へのスケジュール管理などを学びます	2通	45	○	○	○	
○		インターンシップ	サロンワークに参加して、一連の業務を知ることで必要なスキルを理解し、実習後にレポートにまとめ、それを現場からフィードバックしてもらってスキルアップを図ります	2通	30		○ ○	○ ○	○
○		接客学	立ち姿勢や歩き方を見つけます。社会人としての正しい敬語や手紙の書き方や社内コミュニケーション、化粧品と肌の関係を学び、個々の対応の違いや顧客心理の変化を学習します	1通	60		○ ○	○	
○		作品作り	4大コレクションの検証を行い、今期のトレンド傾向を分析します。モデルに合わせたテーマを設定し、イメージをコラージュと企画書で表現して、バランスを考えてオリジナル作品を制作します	1通	60		○ ○	○	○
○		デッサン	物を描くことで陰影の基本を学んで顔の立体感を理解し、観察力を高めて、メイクアップのセンスに磨きをかけます	1通	15		○ ○	○	○
○		実践型研修	化粧品会社の本社や教育施設を訪問して企業の特徴や求められる人材等を理解し、業界全体の動向をうかがうことで、入社後のキャリアアップに繋げます	1通	15		○	○ ○	
○		O. designs実習	店舗型実習施設で授業をおこない、お迎えやカウンセリング、スキンケアアドバイス、希望メイクの聞き出し、メイクの提案から施術、販売、お見送りまでの一連の流れを学習します	2通	60		○	○ ○	
○		メイク実習 II	骨格の理解や陰影、立体を表現する技術を学び、チャームアップメイクやコンプレックスを解消するメイクテクニックなどから「似合わせ」を理解し、技術の幅を広げます	2通	360		○ ○	○	○

○	化粧品ブランドメイク	化粧品業界マップの作成から業界理解を深め、ヘア・メイク・ファッショントータルでの作品作りを学び、製品から広がるイメージコンセプトを理解して作品に表現します	2通	30				○ ○	○		
○	トレンドメイク	今の社会情勢を理解し、完成を高めてトータルバランスを追及した作品を創り上げます。ヘアとメイクアップのバランスを学び、クオリティの高い作品作りを目指します	2通	30				○ ○	○		
○	スカルプチャーメイク検定	骨格にあわせるメイク技術を学んで、骨格を活かしながらテーマ課題をメイクアップで表現し、作品を完成させます	2通	30				○ ○	○		
○	ファッションⅡ	ファッショントレンドについて、社会情勢からトレンド分析をおこない、メイクとファッションを含めたトータルでの作品企画を立案し、イメージ性の表現を最大限に高めます	2通	15				○ ○	○		
○	カウンセリング	表現と動作、コミュニケーション力、言葉遣いや身だしなみの基本的な対人スキルを学習し、肌の悩みのヒアリングやアドバイス、購買に至るまでの実践的な力を身につけます	2通	180				○ ○	○		
○	皮膚理論	カウンセリングに必要な皮膚知識の理解を深め、季節ごとに変化する肌の悩み別のタイプを学び、購買顧客が求めている「美しい肌」の顧客満足のハウツウを身につけます	2通	30		○		○	○		
○	パーソナルカラーⅡ	色彩学の基本をもとに色の成り立ちを学び、色彩効果と色のイメージを深く学習することで、メイクアップバランスが理解できるようになります	2通	30				○ ○		○	
○	アロマテラピーⅡ	アロマテラピーの生理的作用を学習し、利用法を理解して、健康的な身体作りが実践できるよう、アロマテラピーを生活の中に取り入れる方法論を身につけます	2通	15				○ ○	○ ○		
合計		29科目	2010単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①この学則で定める必要な時間数を履修していること。 ②教科科目の区分ごとに、その教科科目の3分の2以上 (実習を伴う教科科目は5分の4以上)出席していること。 ③学期末試験において、すべての課目が60点以上であること。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	13週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
大村美容アフタッシュン専門学校	平成4年3月31日	齊藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士				
衛生	美容専門課程	マイク・エステ科 (エステティックコース)	平成28文部科学省告示第12号	—				
学科の目的	本校が目指す教育は、卒業後すぐに即戦力となり、人材を育成することです。即戦力育成のためには、在学中から就業した時を想定した授業展開や深い専門知識の習得が不可欠です。 そのためには、関係業界からの協力を得て、今現在の業界の動向や必要とされる能力や技術、それを実現させるための授業内容等についての意見や要望をいただいて参考にし、実践的な教育を展開していきます。							
修業年限	昼夜	全修業のため必要な 授業科目数又は単位数 ■2年	講義 1710時間	演習 585時間	実習 0時間			
2年	昼間			1515時間	0時間			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
180人	102人	0人	7人	8人	15人			
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績評価: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成績、履修状況等を総合的に判断			
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月20日～1月10日 ■学 年 末:3月20日～4月8日			卒業・進級 条件	必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして対処			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 町内行事への参加、学生自治組織・清掃ボランティア			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) (株)イプサ、ELG(株)、(株)アルビオン、資生堂ジャパン(株)、日本ロレアル(株) ■就職指導内容 就職ホームページによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導 など ■卒業者数 47 人 ■就職希望者数 46 人 ■就職者数 46 人 ■就職率 100 % ■就職者に占める就職者の割合 : 97.8 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			
					■資格・検定名 CIBTACインターナショナルライセンス 日本エステティック協会認定エステティシャン 日本アロマ環境協会検定 ③			
					※他の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
中途退学の現状	■中途退学者 9 名 平成28年4月1日時点において、在学者103名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者95名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、経済的問題、道徳変更、病気			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入							
第三者による学校評価	■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載							
当該学科のホームページURL	URL: http://www.omula.com/							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義について

(1)大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査における「就職率」の定義について

(2)「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものといいます。

(3)「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。

(4)就職者とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などがされた者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯医学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(5)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

(1)卒業者に占める就職者の割合とは、全卒業者数のうち就職者数を占める割合をいいます。

(2)就職とは給料、賃金、報酬その他他常勤な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職とはしません(就職が先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進めています。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。(1)国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、(2)国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、(3)その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しい業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

①本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案

②委員会で内容を検討

③意見や改善案を理事長に提出

④委員会からの意見・改善案を加味して、校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月12現在

名前	所属	任期	種別
石橋 寧	株式会社 ACRO	H29.4.1~H31.3.31	③
佐藤 武昌	株式会社 ほたんや	H29.4.1~H31.3.31	③
稻葉 麻美	ML美容室	H29.4.1~H31.3.31	③
犬丸 明子	株式会社 テスワールド	H29.4.1~H31.3.31	③
岡山 寛	株式会社 アイリス	H29.4.1~H31.3.31	③
小林 治	日本ビューティーコーディネーター協会	H29.4.1~H31.3.31	①
佐藤 健	株式会社 パシフィクホスピタリティーグループ	H29.4.1~H31.3.31	①
齊藤 ちづる	大村美容ファッショントークン専門学校 (校長)	H29.4.1~H31.3.31	
田中 昭子	大村美容ファッショントークン専門学校 (教務課長)	H29.4.1~H31.3.31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。

(開催日時)

第1回 平成27年12月14日 13:00~15:00

第2回 平成28年5月15日 13:00~15:00

第3回 平成28年12月12日 13:00~15:00

第4回 平成29年5月15日 13:00~15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

◎オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、お客様が満足する技術の提供に加えて、その各技術や商品をコーディネイトするビューティーコーディネーターを育成するために以下の項目を、カリキュラムに盛り込んでほしい

①ホスピタリティビジネススキル

②ビューティーコーディネーターの仕事

③ビューティーコーディネーターの美容知識

→カウンセリング実習の中に取り入れ、実践的に鍛錬していくことで、お客様の求めるものをトータルに提案できる力が学生に付いてきているのが実感できるので、今後も継続しておこなっていく

◎オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、ビジネススキル、特に敬語が使えていない。パーソナルな対応になると、形通りではダメで個性を活かして、笑顔の愛らしさや言葉遣いの丁寧さと崩し方、人懐っこさなどを表現としてできるようにケーススタディーと訓練で強化をしてほしい

→形をマスターした上で、自分自身をいかに表現するかを指導に取り入れている

◎オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、商品販売の目標は持たせるべきだが、売上の手前にカウンセリングの理解度・満足度が高くないと、仕事も面白くないし押し売りになるので、カウンセリングを充分に学ばせた後がよい

→まずカウンセリングの大事と面白さを理解させることを念頭に指導をおこなっている

◎オーデザインズ実習(スタジオカウンセリング実習)について、カウンセリングで一方的に勧めてる、尋問調になつてゐる、会場外での立ち振る舞いがおろそか、敬語の使い方がいいかけん、お見送りが完全にできていない、といったことが

見受けられるので、特に気をつけて指導をお願いしたい
→台本の暗記をやめて如何なるケースでも対応できるようにする、会話の中から質問する項目を選択させる、などをおこない改善を図っている

◎メイク実習について、メイク実習の中でのモデルを使ったイベント「メイク・メイク・メイク」までの授業進行について、以下の流れを提案したい

- ①当社商品の展開を知る
- ②当社の商品コンセプトを知る
- ③今期トレンド理解
- ④今期メークコンセプト・販売戦略の理解
- ⑤実際のモデルを使ってのメイク実技
- ⑥モデルによるパフォーマンス

→この進行を取り入れ、イベントまでの途中過程の重要性を学生も理解できており、授業に充実感が感じられる

◎コフレ実習(クライアント実習)について、カウンセリングでマナーの部分が形式に流れてきているくらいを感じるので、そのあたりを丁寧に指導する必要を感じる
→カウンセリング姿勢やお茶の出し方、階段の上り下りまで細部に渡って再指導をしている

●コフレ実習(クライアント実習)について、モデルハントを経験させるのはよい事だが、ノルマ的印象になると一生顧客開拓が苦手になるので、目的を充分に理解させてからおこなってほしい
→ただ数値達成のためにやらせるのではなく、目的についてを充分に理解させて前向きな気持ちでおこなえるように指導している

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現するために、流行や変化の激しい美容・メイク・エステ業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の美容・メイク・エステ業界において実際に必要とされている技術や知識を企業等に実践的に教授してもらうことで、即戦力となる技術の習得を図るとともに、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習・演習を企業等と連携しておこなうにあたって、基本的に以下の流れにそっておこなっています。

①学校の方針や担当してもらう実習・演習の内容、成果目標等を企業等に伝えて、よく理解をしてもらった上で、契約書を締結

②実習・演習の実施前に、担当教員と企業等とで授業科目の全体のスケジュールや到達目標を説明し、講師がおこなう実習内容の詳細や到達目標と、その後の担当教員の指導方法などについて摺り合わせをおこなう

③企業等が授業をおこない、担当教員は授業運営のサポートをしながら、自身も授業を受けて技術向上などに努める

④授業が修了する際に、技術テストなどの設定していた評価項目により、企業等に学生の評価をしてもらい、それを基に担当教員が成績評価と科目修了の認定をする

⑤授業の一部のみを企業がおこなう科目の際は、企業等に学生の評価をしてもらうと合わせて、最終的な学修成果の評価指標などについての助言をもらい、それを踏まえて担当教員が成績評価と科目修了の認定をする

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
メイク実習 (ウォーキング)	骨格の理解や陰影、立体を表現する技術を学び、チャームアップメイクやコンプレックスを解消するメイクテクニックなどから「似合わせ」を理解し、技術の幅を広げます	株式会社オールサイド
作品作り	今期のトレンド傾向を分析します。モデルに合わせたテーマを設定し、イメージをコラージュと企画書で表現して、バランスを考えてオリジナル作品を作ります	Office KC
撮影メイク	照明の基本を学習し、シューティングの基本からテーマに合わせて作品をつくり、企画書提案やコラージュ作成を通じて表現方法を深めます	株式会社ボンインパクト
アロマテラピー	香料の種類を学び、フレグランスの種類と特徴や心身に働きかける芳香療法を学びます	日本アロマ環境協会

ネイル	手や足の爪の構造や働き、病気について学びます 相モデルでマニキュアの練習を繰り返し、あらゆるテクニックを習得します	株式会社Crazy Carts
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にファッション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。		
1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム		
(ア)資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修		
(イ)業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修		
(ウ)企業が主催するコンテスト対策の授業		
(エ)最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修		
2. 教員の指導力向上のためのプログラム		
(ア)組織のチームビルディングを形成するための研修		
(イ)傾聴技法を学ぶ研修		
(ウ)青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
②インダーナショナルメイクアップ研修		
対象 対象学科の全ての専任教員		
期間 平成27年10月4日		
主催 九州理容美容学校協会		
概要 九州の美容学校の教員向けに九州理容美容学校協会が主催して、東京で活躍するメイクアップアーティスト柏木進氏の研修で、輝くメイクアップの考え方とそのテクニックを学習し、メイク実習の授業で指導に活かします		
③ビューティーコーディネーター研修		
対象 対象学科の専任教員2名		
期間 平成27年11月9日		
主催 日本ビューティーコーディネーター協会		
概要 現在、業界において需要が高まっているビューティーコーディネーターについての教育を学生に反映させるため、最新の動向とビューティーコーディネーターが必要とする知識や技能、検定についてを学習し、コーディネーター学などの授業で指導に活かします		
④トータルエステティックアドバイザー検定研修		
対象 対象学科の専任教員1名		
期間 平成27年11月16日		
主催 日本エステティック協会		
概要 エステティックのプロとして実務経験を活かし、業界をリードする指導的立場を担うエステティシャンであるトータルエステティックアドバイザーの認定を受けるべくエステの実技を学習し、エステ実習の授業で指導に活かします		
⑤エステティック研修		
対象 対象学科の専任教員1名		
期間 平成27年11月16日		
主催 株式会社滝川		
概要 美容・エステの機器メーカーである滝川が業界向けにおこなっているエステティックセミナーを受講してエステ技術とせんべい・運営について学習し、実習の授業で指導に活かします		
⑥指導力の修得・向上のための研修等		
⑦新任教員指導力研修		
対象 対象学科の専任教員2名		
期間 平成27年7月30日、31日		
主催 職業教育キャリア教育財団		
概要 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任指導育成のための目標管理力や新任の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す		
⑧教育・指導力向上研修		
対象 対象学科の専任教員2名		
期間 平成27年8月4日～6日		
主催 職業教育キャリア教育財団		
概要 教員にとって必要な基礎的知識の習得を目的に、「専修学校における職業教育」「専修学校教育のあり方と授業実践」「専修学校と制度」「学生・教員のための実践心理」の項目について学び、学生への指導に活かします。		
⑨教育・指導力向上研修		
対象 対象学科の専任教員1名		
期間 平成27年11月17日、18日		
主催 職業教育キャリア教育財団		
概要 教育活動におけるプロセスを大切にした学生との関わり方や観察力の必要性を感じる上で、教員自らがファシリテーションを体験して、その体験で得た効果の実感することを通じて、自らがファシリテーターとなるためにどのようなマインドで基礎的な知識とスキルを必要とするか、まずは確認することで、今後の教育・指導力向上に向けた学習のきっかけとする		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
②インダーナショナルメイクアップ研修		
対象 対象学科の全ての専任教員		
期間 平成28年9月26日		
主催 九州理容美容学校協会		
概要 九州の美容学校の教員向けに九州理容美容学校協会が主催して、メイクアップの顔全体のバランス、眉のイメージバランス、カラーイメージを学習し、メイク実習の授業で指導に活かします		
③ビューティーコーディネーター研修		
対象 対象学科の専任教員1名		
期間 平成28年11月7日		
主催 日本ビューティーコーディネーター協会		
概要 現在、業界において需要が高まっているビューティーコーディネーターについての教育を学生に反映させるため、最新の動向とビューティーコーディネーターが必要とする知識や技能、検定についてを学習し、コーディネーター学などの授業で指導に活かします		

◎口ミロミ実技研修
対象 対象学科の全ての専任教員

期間 平成28年11月16日、17日

主催 株式会社ロミロミ

概要 取り扱うサロンが増えているハワイに古くから伝わる伝統的な癒しの技術であるロミロミについての知識や施術効果、技術を実技形式で学習し、コフレ実習での授業で指導に活かします

◎指導力の修得・向上のための研修等

◎体系的カリキュラム・シラバス作成研修

対象 対象学科の専任教員1名

期間 平成28年7月21日、22日

主催 職業教育キャリア教育財団

概要 より学生に分かりやすく効率的に学べるカリキュラム・シラバスを作成する手法としてのインストラクショナル・デザイン(ID)とは何かを学び、これを用いてカリキュラム・シラバスを設計・開発できるようにする。

◎教育・指導力向上(ファシリテーションの効果を実感する体験学習)研修

対象 対象学科の専任教員1名

期間 平成28年8月2日～4日

主催 職業教育キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会

概要 教員にとって必要な基礎的知識の習得を目的に、「専修学校における職業教育」「専修学校教育のあり方と授業実践」「専修学校と制度」「学生・教員のための実践心理」の項目について学び、学生への指導に活かします。

◎学級経営・学生対応研修

対象 対象学科の専任教員2名

期間 平成28年8月25日、26日

主催 職業教育キャリア教育財団

概要 これまでの教科担当、クラス指導の経験を振り返り、自分の強みと弱みを再確認し、今後学校の中核として業務を遂行できる人材になることを目標として、そのために学生に対する「全体指導」「個別指導」の手法を網羅して、学生への効果的な動機付けの手法や、所属する学科の運営方法を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。

そのために、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんのこと、評価をする上で他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2)学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ・実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要素を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4)学修成果	① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多くて違和感はないだろうが、タバコを吸った後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。
→今まで少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、しっかりととした指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたらスタイリストの動きに違和感がある。「スタイリスト対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)
学生にもっと(一般的)のサロンモデルをやって欲しい。

→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドレスコード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。
→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 輝彦	有限会社KATSUKI (ビューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表年月日:H29.9.28

URL: <http://www.omula.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知つてもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none">・学校の目標及び計画、経営方針、特色・校長名、所在地、連絡先等・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none">・収容定員、在学学生数・カリキュラム・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等)・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none">・教職員数(職名別)・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none">・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none">・学校行事への取組状況・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none">・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none">・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等)・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none">・収支報告書、財産目録
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none">・自己評価・学校関係者評価の結果・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

授業科目等の概要

(マイクアップ専門課程マイク・エステ科(エスティックコース))平成29年度												
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習			
○			キャリアデザイン I	働く事の目的や、学生と社会人との違いを理解し、職業観や人生観について考えます。就職活動を円滑に行なうための書類作成や応募するまでの手順、社会人マナーや基本的ルールを学習します	1通	60		○		○	○	
○			マイク実習 I	各課題の合格基準を明確に捉え、マイクアップ合格範囲と時間配分を常に意識できるように、個別アドバイスや検定ノートを使用しながら、骨格を活かしたマイクの基本を学習します	1通	240			○ ○		○	
○			エステ実習 I	フェイシャルエスティックの目的、効果、筋肉や骨格の名称などの理論を学び、マッサージにおける基本手技である六法を習得します	1通	90			○ ○		○	
○			マイク理論 I	化粧の始まりから取り扱いまで、マイクアップ知識全体を学習します。また、骨格や顔の部位の名称、化粧品成分やクレーム対応時の接客法まで学習します	1通	60		○		○	○	
○			エステ理論 I	エスティックの概念、領域、歴史、カウンセリングの基本的な考え方やエステティシャンの姿勢を理解し、衛生管理や経営者に求められる資質についても学習します	1通	15		○		○	○	
○			解剖生理 I	身体は細胞の集合体であり、複雑な構造をしていることを学び、さらに器官ごとに細かく、それぞれの仕組みと働きを学びます	1通	15		○		○		○
○			ネイル I	ネイルケアの歴史を学び、手や足の爪の構造や働き、病気について学びます 相モデルでマニキュアの練習を繰り返し、あらゆるテクニックを習得します	1通	90				○ ○	○	○
○			ヘアアレンジ I	ヘアアイロン、ホットカーラーなどの美容器具の使用方法を学び、様々なアップスタイルを軸に、ヘアアレンジの基本を学びます	1通	45				○ ○	○	
○			ファッショニ I	ファッショニ史を学び、各時代の特徴を理解します また、ジャンルを理解する事で、ファストファッショニとコレクションの違いを学習し、トータルバランス力を養います	1通	15		○		○	○	
○			パーソナルカラー I	色彩学の基本をもとに色の成り立ちを学び、色の持つ心理的効果と配色の基本を学びます	1通	30		○		○		○

○		アロマテラピーアート	香料の種類を学び、フレグランスの種類と特徴や心身に働きかける芳香療法を学びます	1通	30				○ ○		○ ○
○		ボディジュエリー	ボディジュエリーで使用する教材の扱い方から基礎理論を深く学び、ボディーストーンやカウンセリング理論からアフターカウンセリングまで学習して、カラーアレンジの理解を深めます	1通	15				○ ○	○	
○		コーディネーター学	ビューティーコーディネーター検定3級取得を目指し、生産性を高めるレセプションワークやビジネススキル、会話力や接客の基本的マナーとともにヘア知識を学習し、具体的な提案力を身につけます	1通	30		○		○	○	
○		キャリアデザインⅡ	学生と社会人の違いを理解して、就職する目的を学習します。キャリアプランを明確にし、自己理解を深め、社会人マナーや基本的ルール、目標や就職へのスケジュール管理などを学びます	2通	45		○		○	○	
○		インターンシップ	サロンワークに参加して、一連の業務を知ることで必要なスキルを理解し、実習後にレポートにまとめ、それを現場からフィードバックしてもらってスキルアップを図ります	2通	30				○ ○ ○	○	
○		エステ実習Ⅱ	ボディエステティックの目的、効果、筋肉や骨格の名称、禁忌事項などの理論を学び、相モデルで検定の流れにそって、採寸・体格指数の算出・ボディの分析、六法の手技を習得します	1通	105				○ ○	○	
○		エステ理論Ⅱ	カウンセリングとコンサルティングを理解し、お客様の心理状態やカウンセリング全体の流れを学び、ボディや肌分析の仕方、より効果を出すためのホームケアアドバイスの方法を習得します	1通	45		○		○	○	
○		実践型研修	化粧品会社の本社や教育施設を訪問して企業の特徴や求められる人材等を理解し、業界全体の動向をうかがうことで、入社後のキャリアアップに繋げます	2通	15				○ ○ ○		
○		コフレ実習	メニューの組立、電話予約、お出迎え、お会計、お見送りといったサロン業務を徹底的に見つけます。カウンセリングで肌質や要望に合ったトリートメントプランを組立て、ホームケアアドバイスまでおこない	2通	150				○ ○ ○		
○		エステ実習Ⅲ	クレンジングテクニックからトリートメント、WAX脱毛までの基礎を学び、相モデルで実践します。ボディトリートメントの手順と手法を学習して技術の幅を広げます	2通	495				○ ○ ○	○	
○		CIBTAC検定	実際の検定要綱にそってシュミレーションを繰り返し、検定の傾向を知り、ポイントを押さえます。検定の趣旨にそったテクニックやケーススタディの作成方法などを細かく指導します	2通	30				○ ○	○	
○		エステティック機器学	フェイシャル機器やボディ機器の目的や効果、使用上の注意事項を正しく理解し、お客様の要望やカウンセリングについて細かく指導します	2通	15				○ ○		○ ○
○		メイク実習Ⅱ	骨格の理解や陰影、立体を表現する技術、チャームアップメイクやコンプレックスを解消するメイクテクニックなどから「似合わせ」を基本的に理解をします	2通	30				○ ○ ○ ○	○ ○	

	○		エステ理論Ⅲ	美しい肌と栄養に欠かせない肌に良い食品群や肌つくりの基礎を学習し、化粧品の原料や薬剤の目的や働きを分類別に学びます	2 通	30		○		○	○	○		
	○		解剖生理Ⅱ	細胞の構造や器官系ごとの仕組みと働きなどを学びます。部位にあわせた強さやポイントを捉えてトリートメントをおこなえるように指導します	2 通	15		○		○		○		
	合計			25科目	2010単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①この学則で定める必要な時間数を履修していること。 ②教科科目の区分ごとに、その教科科目の3分の2以上 (実習を伴う教科科目は5分の4以上)出席していること。 ③学期末試験において、すべての課目が60点以上であること。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	13週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
大村美容ファッション専門学校	平成4年3月31日	齊藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養	ファッション専門課程	ファッション科	平成28文部科学省告示第12号	—	
学科の目的	本校が目指す教育は、卒業後すぐに即戦力となり、人材を育成することです。即戦力育成のためには、在学中から就業した時を想定した授業展開や深い専門知識の習得が不可欠です。 そのためには、関係業界からの協力を得て、今現在の業界の動向や必要とされる能力や技術、それを実現させるための授業内容等についての意見や要望をいただいて参考にし、実践的な教育を展開していきます。				
修業年限	昼夜 2年	全課程の修了による卒業又は修業年限 1,710時間	講義 540時間	演習 0時間	実習 1170時間 実験 0時間 実技 0時間
生徒総定員	生徒実員 160人	留学生数(生徒実員内) 90人	専任教員数 1人	兼任教員数 5人	総教員数 13人 18人
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案 必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月20日～1月10日 ■学 年 末:3月20日～4月8日			卒業・進級条件	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 町行事への参加、学生自治組織、清掃ボランティア
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして対処			課外活動	■サークル活動: 無 ■国家資格・検定その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) ケイ・スピリット、サンマサタバサジヤバンリミテッド、 サンエー・ビーティー、フォルムアイ、フカヤ ■就職指導内容 就職ホームルームによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導など			主な学修成果(資格・検定等) ※3	■種別別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に実践資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生、卒業生のコンテスト入賞状況等
(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)			■資格・検定名 種 受験者数 合格者数 バーン検定 ③ 3人 1人 ファッションビジネス検定 ③ 54人 29人 フォーマル検定 ③ 66人 39人		
中途退学の現状	■中途退学者 8 名 ■中退率 6.4 % 平成28年4月1日時点において、在学者125名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者117名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、経済的問題、進路変更、病気			■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 日頃からの気配りや声掛けなどの強化、早めの気付きによる個別面談等の対応、カウンセラーによる面談	
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等减免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入			■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価冊体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)				
当該学科のホームページURL	URL: http://www.omula.com/				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の『就職率』の取扱い」について(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①就職率については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをおいています。

②就職希望者は、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③就職者とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

*「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業次年に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時の仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職者が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生、卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しい業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなつた上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

①本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案

②委員会で内容を検討

③意見や改善案を理事長に提出

④委員会からの意見・改善案を加味して、学校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月12現在

名 前	所 属	任期	種別
西岡 克	株式会社 商業界	H27.4.1～H31.3.31(4年)	①
佐藤 梨枝子	ワنسアラウンド 株式会社	H27.4.1～H31.3.31(4年)	③
小島 康介	株式会社 サンエー・ビューティー	H27.4.1～H31.3.31(4年)	③
竹下 昌克	株式会社 上野商会	H27.4.1～H31.3.31(4年)	③
斎藤 ちづる	大村美容ファッショングループ専門学校 (校長)	H27.4.1～H31.3.31(4年)	
田谷 修宏	大村美容ファッショングループ専門学校 (教務課長)	H27.4.1～H31.3.31(4年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。

(開催日時)

第1回 平成28年2月10日 17:00～17:45

第2回 平成28年6月10日 15:00～17:00

第3回 平成28年2月3日 17:00～18:00

第4回 平成29年6月9日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

◎授業科目「販売ロールプレイング」について

- ・よりリアルな接客の必要性が求められるので、台本的な状況設定ではなく、臨機応変を求める方向性での授業展開をおこなっている
- ・お客様役の2年生の学生にも、「臨機応変さ」が求める内容のお客様役ができるように、事前にしっかりと指導をおこなっている
- ・実際に多くの店舗に行ってみて、販売員がどのような対応をおこなっているのかを観察して分析をするように指導している
- ・販売のスキルアップだけではなく、「お客様とは」ということを考えるよう取り組んでいる
- ・インターンシップも併用する必要がないかを再検討していく

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コミュニケーション能力を持ち、顧客のニーズに合わせて柔軟に対応できる現場で即戦力となる社会人の早期育成をおこなうことを目的として、移り変わりの激しい業界の現在の状況を基にした指導や審査をおこなっていただき、自分に不足しているのは何なのか、実際に働く上で何が重要なのかを、学生自身に実体験として理解させることにより目標が明確になり、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます。

学生は、実際に企業に身を置き、実体験に基づいて指導を受けることにより、何が必要なスキルや能力なのかを学び、自分がすべき事は何かを自己分析して意識の向上を図ります。

学生は、実地研修レポートに目標とそのために取り組んだ事、企業から指導を受けた内容や自身の自己評価などを記入して、それを企業に提出して評価・アドバイスをもらったり後、企業から学校へ提出されます。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等
実地研修	実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます	サマンサタバサジャパンリミテッド、ケイ・スピリット 他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
<p>教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の、業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にファッション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。</p>	
<p>1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム</p> <p>(ア)資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修</p> <p>(イ)業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修</p> <p>(ウ)企業が主催するコンテスト対策の授業</p> <p>(エ)最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修</p>	
<p>2. 教員の指導力向上のためのプログラム</p> <p>(ア)組織のチームビルディングを形成するための研修</p> <p>(イ)傾聴技法を学ぶ研修</p> <p>(ウ)青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修</p>	
<p>(2)研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p>	
<p>◎素敵に装うためのトレンドパターンメーキング夏集中講義</p> <p>参加 対象学科の教員2名</p> <p>期間 平成28年8月1日～平成28年8月2日</p> <p>主催 文化服装学院</p> <p>概要 トレンドデザイン6アイテムを1/4サイズで作図、・トレンドデザインを実寸サイズの作図・展開 業界に多大な影響を持つ文化服装学院が主催する一般向けのオープンカレッジ(生涯学習講座)に参加</p> <p>科目 パターンメーキング</p>	
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p>	
<p>◎新任教員研修</p> <p>参加 対象学科の教員6名</p> <p>期間 平成28年8月2日～平成28年8月4日</p> <p>主催 職業教育・キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会</p> <p>概要 専修学校の在り方と授業実践、自己点検・評価の進め方、学内における救急処置 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任指導育成のための目標管理力や新任の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す</p>	
<p>◎中堅教員研修会(学校経営・学生対応)</p> <p>参加 対象学科の教員1名</p> <p>期間 平成28年8月25日～平成28年8月26日</p> <p>主催 職業教育・キャリア教育財団</p> <p>概要 学級経営の効果的手法と学生の個人カウンセリング 学生の対人関係形成能力や社会形成能力の育成のために「Q-Uアセスメント」の理論や実践方法を学び、学生に対する教員個々の指導力を向上させるとともに、校内での教員間の連携を強化し、より効果的なクラス運営、学科運営をおこなえるようにする</p>	
<p>◎中堅教員研修会(教員のキャリアデザインワークショップ)</p> <p>参加 対象学科の教員1名</p> <p>期間 平成28年8月29日～平成28年8月31日</p> <p>主催 職業教育・キャリア教育財団</p> <p>概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく</p>	
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p>	
<p>◎メンズテーラードジャケット パターン講習</p> <p>参加 対象学科の教員3名</p> <p>期間 平成29年8月9日～平成29年8月10日</p> <p>主催 岩井洋服店</p> <p>概要 メンズの体の構造理解とメンズのテーラードジャケット作図の方法 長年にわたり注文服を専門に作り続けている岩井洋服店による講習にて、高度な技術の習得と理解を深める</p> <p>科目 パターンメーキング</p>	
<p>◎レザークラフト 手作りバッグ製作講座</p> <p>参加 対象学科の教員1名</p> <p>期間 平成29年8月3日</p> <p>主催 レザーブランドToB Ataraxia</p> <p>概要 縫製を中心としたレザーのショルダーバッグの製作を行い、レザーの取り扱い方、制作方法を学ぶ 皮革製品のバッグ/小物/アクセサリーのデザイン/制作をおこなうレザーブランドToB Ataraxiaによる講習にて、専門的な知識と技術を習得する</p> <p>科目 特殊素材、ソーイングテクニック</p>	
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>◎中堅教員研修会(リスクマネージメント)</p>	
<p>参加 対象学科の教員1名</p> <p>期間 平成29年7月24日</p> <p>主催 職業教育・キャリア教育財団</p> <p>概要 クレームの基本概念を理解し、過去の事例から対応手順や留意点を知ることで、クレームの諸問題への対応力を高め、問題解決能力を身に付ける また、組織によるクレーム対応を学ぶことにより、自組織の顧客満足度改善計画や企画立案などについても理解を深める</p>	
<p>◎新任教員研修</p> <p>参加 対象学科の教員1名</p> <p>期間 平成29年8月1日～平成29年8月3日</p> <p>主催 職業教育・キャリア教育財団</p> <p>概要 学生・教員のための実践心理、専修学校の制度、専修学校における制度と職業教育 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任指導育成のための目標管理力や新任の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す</p>	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分に理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。
そのために、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんのこと、評価をする上で他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標・育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2)学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか

(8)財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に關し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多くいて違和感はないだろうが、タバコを吸った後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。
→今まで少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、
しっかりとした指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたらスタイリストの動きに違和感がある。「スタイリスト対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)

学生にもっと(一般の)サロンモデルをやって欲しい。

→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として 臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドレスコード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。
→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 輝彦	有限会社KATSUKI (ビューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表年月日:H29.9.28

URL: <http://www.omula.com/>

5 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知ってもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の目標及び計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム ・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況

(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	・収支報告書、財産目録
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
URL: <http://www.omula.com/>

授業科目等の概要

(ファッショント専門課程 ファッショント科) 平成29年度													
分類		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任
○		キャリア教育Ⅰ	様々な題材の講義を基に将来自分はどんな職業人になるのかの具体的なイメージを持たせていきます。	1通	15		○			○		○	
○		販売ロールプレイングⅠ	設定時間内でロールプレイングを繰り返し実践します。販売知識や技術だけでなく、細かな仕草や言葉使いも指導します。ロールプレイングコンテストを開催し、即戦力となる能力を企業の方々へ披露します。	1通	90				○ ○		○		
○		パターンメイキング	業界で基本となる原型を作図し、スカート、パンツ、シャツの作図手順と縫製手順を学習します。作図時間を設定し、時間内に作業が終了できるようにトレーニングします。	1通	60				○ ○		○		
○		ソーイングテクニック	業界で基本となる原型を作図し、スカート、パンツ、シャツの作図手順と縫製手順を学習します。縫製時間を設定し、時間内に作業が終了できるようにトレーニングします。	1通	60				○ ○		○		
○		インターネットショップ検定Ⅰ	ネットビジネスの基礎知識からファッショント業界での効果的な集客の仕方・活用、実践的な運営の仕組みを学びます。	1通	15		○			○		○	
○		ファッションドローイングⅠ	デザインやイメージを正確に伝えるために平絵を中心に描き方の習得をします。イメージに適した画材を使い、素材表現もします。	1通	90				○ ○		○		
○		コレクション解説Ⅰ	最新のコレクション映像を見ながらコンセプトやテーマを知り、感じることで独自の視点での検証やものの考え方を身につけていきます。	1通	15		○			○		○	
○		服装史	西洋の服装史を中心に学びます。服の始めから、どう時代の変化と共に服も変化していくかなど、時代背景を理解しながら流行を学びます。	1通	15		○			○		○	
○		フォトショッピング&イラストレーターⅠ	アドビシステムズ社のフォトショッピング・イラストレーターを使用して、各種媒体を考慮した作品制作の基本操作方法を習得します。	1通	30				○ ○			○	
○		スタイリングマップ検定Ⅰ	色の基礎知識を基に、アイテムカラー・人・形・素材・ファッショント分類をコーディネートの際に明確に分類できるように理解をしていきます。	1通	30				○ ○		○		

○		ファッションビジネス能力検定3級	素材産業から、服を企画・生産・販売する広範囲な領域のビジネス活動に加え、デザインの定義やコーディネーション、ファッション商品知識まで幅広く専門知識を学びます。	1通	30		○			○	○		
○		販売外語 I	基本的な単語から挨拶、店頭で接客をする際に役に立つ会話を学ぶことで、外国人とコミュニケーションがとれる方法を学びます。	1通	30		○			○		○	
○		マーケティング I	ファッションマーケットを理解する為に、自らの目でリサーチをしマーケットレポートを作成します。マーケットレポートはクラス内で発表し、情報を共有します。	1通	15		○			○	○		
○		生産管理 I	生産管理において基礎知識となる業界構造の理解、組織や素材の種類や構造、染色や加工の種類や方法を学びます。	1通	30		○			○	○		
○		就職ホームルーム I	将来像を明確にするために、ファッション業界の職種や構造、就職活動の流れなどを学び、履歴書の書き方・自己分析・一般常識テスト・面談トレーニングなど必要なスキルは繰り返し練習します。	1通	30		○			○	○		
○		ビジネススマナー I	ファッション業界で即戦力となるべくビジネスマナーを習得します。特に基本となる言葉遣いや敬語を中心に行い、プレゼンテーションや企画発表でも正しい言葉遣いが出来るように学びます。	1通	15		○			○		○	
○		ショー演出 I	衣装をよく魅せる為の、ショー構成・音楽選択・ウォーキングを実践的に学び、過去のファッションショーを見ながら、細かい演出テクニックを実際のショーで応用していきます。	1通	30					○	○	○	
○		ショー企画 I	どのようなショーを行うのかグループで話し合い、世界観やイメージを第三者が見ても分かるような企画書にまとめていきます。	1通	60					○	○	○	
○		ショー製作 I	デザイン画を描き、デザインに合った素材を探し、パターン製作から縫製、リメイク方法など、それぞれに合わせて個別の指導をします。	1通	90					○	○		○
○		ショーメイク I	メイク道具の基本的な名称と使い方からベースメイクの仕方、アイメイク・アイブロウの書き方、リップの選び方など細かく学びます。	1通	30					○	○		○
○		実地研修	実地研修（インターンシップ）をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業からの指導を受けてることによって学生の自覚を促します。	2 ③	30					○	○	○	○
○		キャリア教育 II	学生と社会人の違いを理解して、就職する目的を学習します。書類作成や求人票の見かたから応募するまでの手順を学びます。	2通	15		○			○	○		
○		販売ロールプレイング II	テキスト「ファッション販売 II」を基に、顧客作りから対応方法、クレーム対応方法など中堅レベルの業務内容を学習し、ファッション販賣能力検定2級に適応する能力を身に着ける。	2通	60					○	○	○	

○		生産管理Ⅱ	アパレルメーカーの目的や役割を知り、企画から生産に至るまでに必要な知識や技術を学びます。販売価格と原価、予算と売り上げなど企業経営に関わる内容を理解します。	2 通	30		○		○	○	○		
○		インターネットショップ検定Ⅱ	インターネットショップ検定Ⅰの応用として、ネットビジネスの知識やファッショング業界での効果的な集客の仕方・活用、実践的な運営の仕組みをより深く掘り下げて学びます。	2 通	15		○		○		○		
○		フォーマル検定	冠婚葬祭や男女別の正しいフォーマル知識やルールを学び、日本フォーマルウェア協会が実施するフォーマルウェア検定のブロンズライセンス取得のための内容を習得します。	2 通	15		○		○	○			
○		コレクション解説Ⅱ	最新のコレクション映像を見ながらコンセプトやテーマを知り、感じることで独自の視点での検証やものの考え方を身につけていきます。	2 通	15		○		○	○			
○		ファッションドローイングⅡ	デザインやイメージを正確に伝えるために平絵を中心に描き方の習得をします。イメージに適した画材を使い、素材表現もします。	2 通	90				○	○	○		
○		販売外語Ⅱ	基本的な単語から挨拶、店頭で接客をする際に役に立つ会話を学ぶことで、外国人とコミュニケーションがとれる方法を学びます。	2 通	30		○		○		○		
○		期間限定ショップ運営	ショップを立ち上げることを前提に、自分が販売したい商品を選択し、仕入れ先とのやり取りの仕方、納品方法、検品の仕方、伝票の書き方などを学習します。	2 通	30				○	○	○		
○		商品企画	マーケティングやトレンド情報から来季売れる商品を企画し、平絵・縫製指示書をもとに縫製メーカー、パターンナーと打ち合わせ・オーダーを行い商品サンプルを製作します。	2 通	30				○	○	○		
○		VMD概論	VMD理論を理解し、実際に市場へ出かけ、ターゲット、立地ごとに解説を聞いた後、自分の興味があるブランドもしくは仮想店舗をプロデュースし、出店計画の方法を学びます。	2 通	15				○	○		○	
○		ショッププランニング	自分のショップを立ち上げることを仮定して実際の立地や物件を探し、創業計画書を完成させるために必要な項目について内容を決めていきます。	2 通	15				○	○	○		
○		販売心理	サービスを提供するため、いろいろな工夫の中にある知識やテクニックを理解し、心理学の手法を取り入れたコミュニケーション技法を学びます。	2 通	15		○		○		○		
○		プレス概論フリーペーパー制作	デザイン・制作部門と販売部門の取次ぎを担う部門として、商品の展示会やVMDの企画、また案内状（プレスリリース）制作までを創作します。	2 通	60				○	○		○	
○		フォトショップ&イラストレーターⅡ	ファッションにおけるグラフィックの役割を理解しグラフィックスソフトを扱う技術を習得します。表現やプレゼンテーションツールのスキル向上を目指して、ロゴや企画書を製作し表現力を養います。	2 通	30				○	○		○	

○		トレンド分析	流行しているものは何かリサーチを行い、なぜ流行しているのかを分析することでトレンドの仕組みを理解します。	2通	30	○		○	○	
○		スタイリストワーク	スタイリストの基本技術の他、イメージの伝え方、そのために必要なツール・スケジュール管理法を学びます。	2通	60			○	○	○
○		マーケティングⅡ	デザインとマーケティングの関係について学び、商品企画の視点から分析します。実践に役立つ知識を身につけ、ビジュアル資料制作を行います。	2通	15	○		○	○	
○		ヘアメイク論	顔をキャンバスに幅広い表現が出来るよう、様々なテーマにあわせイメージメイクを学ぶことで、ファッショントピックとのバランスを構築し、トータルでの表現の仕方を習得します。	2通	15	○		○	○	
○		アート&カルチャー	現代アートの解説や実体験をします。歴史的アーティストについて学び、絵画展などの美術館見学をとおして感性を豊かにします。	2通	15	○		○	○	
○		ファッションビジネス能力検定2級	ファッションビジネスに関する知識とファッション造形知識を学び、企画や生産から流通にわたるファッションとビジネスの専門的な知識と技術を身につけます。	2通	15	○		○	○	
○		スタイリングマップ検定Ⅱ	ジュニアスタイリストの資格をベースに、ブライダルブーケやスーツディティールなど形や素材の分析や、トータルのバランスを見て知識を深めます。	2通	15	○		○	○	
○		就職ホームルームⅡ	学内企業セミナーの実施、企業説明会の紹介や、就職活動に必要な文章力、表現力、コミュニケーション力向上の為に面接トレーニング、履歴書チェック、求人企業案内、基本動作などを行います。	2通	15	○		○	○	
○		ビジネスマナーⅡ	ファッション業界に限らず、社会で即戦力となるべくビジネスマナーを習得します。言葉遣いだけでなく、一般常識といわれるマナーを徹底して学び身につけます。	2通	15	○		○	○	
○		ショー演出Ⅱ	自らデザインした服のショーでの演出について学習します。照明、曲、モデルのウォーキングや動きまで構想を練り、限られた時間の中でデザイナーの世界感を表現出来るよう学びます。	2通	30			○	○	○
○		ショー企画Ⅱ	どのようなショーを行うのかグループで話し合い、世界観やイメージを第三者が見ても分かるような企画書にまとめていきます。	2通	60			○	○	○
○		ショー製作Ⅱ	デザイン画を描き、デザインにあった素材を探したり、加工して作ったりします。パターン製作から縫製まで、それぞれのデザインに合わせて個別の指導をしていきます。	2通	90			○	○	○
○		ショーメイクⅡ	道具の正しい使用方法を学び適切なメイク法を学びます。メイクレシピを作成し、ベースメイク、アイメイク、ポイントメイクの仕方を学びます。	2通	30			○	○	○

○		特別授業	その年に活躍されている方や学生からニーズのある方をお招きし、最新の情報や技術を学びます。	2 通	30	○	○	○	○	○	○
合計		50科目				1710単位時間(単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①この学則で定める必要な時間数を履修していること。 ②教科科目の区分ごとに、その教科科目の3分の2以上 (実習を伴う教科科目は5分の4以上)出席していること。 ③学期末試験において、すべての課目が60点以上であること。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	13週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合

については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
大村美容アッセイション 専門学校	平成4年3月31日	斎藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	アッセイション専門課程	アッセイションクリエイター科	平成27年文部科学省告示第13号	—			
学科の目的	常に変化する流行を捉え、市場のニーズに合わせた商品企画が出来る人材を育成します。 また、企画書の作成から実際の生産に必要な仕様書・パターン製作・品質管理・納品・売り上げ計算まで実践的に学習する事により、即戦力となる人材を育成します。 更にオリジナリティーを発揮し、効果的なプレゼンテーション手法を習得することにより、自らデザイン提案が出来る業界を牽引できる人材を育成します。						
修業年限	昼夜 <small>全課程の修了に必要な 就業実績数又は単位数</small>	講義	演習	実習	実験 実技		
3 年	昼間 2,430時間	540時間	0時間	1,890時間 0時間	0時間 単位時間		
生徒総定員	生徒実員 120人	留学生数(生徒実員の内 32人)	専任教員数 0人	兼任教員数 4人	総教員数 9人 13人		
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日	成績評価 卒業・進級条件	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行なう試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案				
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月20日～1月10日 ■春季:3月20日～4月8日		必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして、生活不良などを、学校と家族が一 体となって改善している。不登校の学生などは、教員が家まで迎えに行くなどして登校することを促進している。	課外活動 主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 町内行事への参加、学生自治組織・清掃ボランティア				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) ケイスピリット(アッセイション小売業)、サマンサタバサジャパンリミテッド(ファッション小売業)、サンエービーディー(アッセイションメーカー・小売業)、フォルムアイ(アッセイションフォーム業)、フカヤ(アッセイション小売業) ■就職指導内容 就職ホームページによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導 など		■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)				
中退率	■卒業者数 ■就職希望者数 ■就職者数 ■就職率 ■卒業者に占める就職者の割合 ■その他 ・進学者数: (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)	資格・検定名 バターン検定 アッセイションビジネス検定 フォーマル検定	種 ③	受験者数 8人 6人 6人	合格者数 6人 5人 6人		
経済的支援制度	■中途退学者 平成28年4月1日時点において、在学者25名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者25名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 平成28年度は退学者なし		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				
第三者による学校評価	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: ※有の場合、制度内容を記入 成績上位で選考するスカラシップ制度 災害被災者への学費減免制度	■専門実践教育訓練給付: 給付対象 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載					
当該学科のホームページURL	URL: http://www.omula.com/						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「各部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行ひ、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などがおされた者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等となります。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他の経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が他の経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しいファッション業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

① 本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案

② 委員会で内容を検討

③ 意見や改善案を理事長に提出

④ 委員会からの意見・改善案を加味して、校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月12現在

名前	所属	任期	種別
西岡 克	株式会社 商業界	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	①
佐藤 梨枝子	ワンスアラウンド 株式会社	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	③
小島 康介	株式会社 サンエー・ビューティー	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	③
竹下 昌克	株式会社 上野商会	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	③
斎藤 ちづる	大村美容ファッション専門学校 (校長)	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	
田谷 修宏	大村美容ファッション専門学校 (教務課長)	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。

(開催日時)

第1回 平成28年2月10日 17:00～17:45

第2回 平成28年6月10日 15:00～17:00

第3回 平成28年2月3日 17:00～18:00

第4回 平成29年6月9日 15:00～17:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

◎授業科目「販売ロールプレイング」について

・よりリアルな接客の必要性が求められるので、台本的な状況設定でなく、臨機応変を求める方向性での授業展開をおこなっている

・お客様役の2年生の学生にも、「臨機応変さ」が求める内容のお客様役ができるように、事前にしっかりと指導をおこなっている

・実際に多くの店舗に行ってみて、販売員がどのような対応をおこなっているのかを観察して分析をするように指導している

・販売のスキルアップだけではなく、「お客様とは」ということを考えるよう取り組んでいく

・別科目でおこなっている実地研修(インターンシップ)は、接客・販売について実践的な習得をおこなうことができるので、インターンシップと連動した教科編成にする必要がないかを再検討していく

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コミュニケーション能力を持ち、顧客のニーズに合わせて柔軟に対応できる現場で即戦力となる社会人の早期育成をおこなうことを目的として、移り変わりの激しい業界の現在の状況を基にした指導や審査をおこなっていただき、自分に不足しているのは何なのか、実際に働く上で何が重要なのかを、学生自身に実体験として理解させることにより目標が明確になり、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます。

学生は、実際に企業に身を置き、実体験に基づいて指導を受けることにより、何が必要なスキルや能力なのかを学び、自分がすべき事は何かを自己分析して意識の向上を図ります。

学生は、実地研修レポートに目標とそのために取り組んだ事、企業から指導を受けた内容や自身の自己評価などを記入して、それを企業に提出して評価・アドバイスをもらった後、企業から学校へ提出されます。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実地研修	実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます	サマンサタバサジャパンリミテッド、ケイ・スピリット 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の、ファッション業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にファッション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。	
1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム (ア) 資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修 (イ) 業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修 (ウ) 企業が主催するコンテスト対策の授業 (エ) 最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修	
2. 教員の指導力向上のためのプログラム (ア) 組織のチームビルディングを形成するための研修 (イ) 傾聴技法を学ぶ研修 (ウ) 青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修	
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等	
◎ 素敵に装うためのトレンドパターンメーキング夏集中講義 対象 対象学科の専任教員1名、兼任教員1名 期間 平成28年8月1日～平成28年8月2日 主催 文化服装学院 概要 トレンドデザイン6アイテムを1/4サイズで作図、・トレンドデザインを実寸サイズの作図・展開 業界に多大な影響を持つ文化服装学院が主催する一般向けのオープンカレッジ(生涯学習講座)に参加 科目 パターンメーキング	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
◎ 新任教員研修 対象 対象学科の専任教員3名、兼任教員3名 期間 平成28年8月2日～平成28年8月4日 主催 職業教育・キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会 概要 専修学校の在り方と授業実践、自己点検・評価の進め方、学内における救急処置 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任指導育成のための目標管理力や新任の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す	
◎ 中堅教員研修会(学校経営・学生対応) 対象 対象学科の兼任教員1名 期間 平成28年8月25日～平成28年8月26日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 学級経営の効果的手法と学生の個人力ウンセリング 学生の対人関係形成能力や社会形成能力の育成のために「Q-Uアセスメント」の理論や実践方法を学び、学生に対する教員個々の指導力を向上させるとともに、校内での教員間の連携を強化し、より効果的なクラス運営、学科運営をおこなえるようにする	
◎ 中堅教員研修会(教員のキャリアデザインワークショップ) 対象 対象学科の専任教員1名 期間 平成28年8月29日～平成28年8月31日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
◎ メンズテーラードジャケット パターン講習 対象 対象学科の専任教員3名 期間 平成29年8月9日～平成29年8月10日 主催 岩井洋服店 概要 メンズの体の構造理解とメンズのテーラードジャケット作図の方法 長年にわたり注文服を専門に作り続けている岩井洋服店による講習にて、高度な技術の習得と理解を深める 科目 パターンメーキング	
◎ レザーランド 手作りバッグ製作講座 対象 対象学科の専任教員1名、兼任教員1名 期間 平成29年8月3日 主催 レザーブランドToB Ataraxia 概要 縫製を中心としたレザーのショルダーバッグの製作を行い、レザーの取り扱い方、制作方法を学ぶ 皮革製品のバッグ/小物/アクセサリーのデザイン/制作をおこなうレザーブランドToB Ataraxiaによる講習にて、専門的な知識と技術を習得する 科目 特殊素材、ソーイングテクニック	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
◎ 中堅教員研修会(リスクマネージメント) 対象 対象学科の専任教員1名 期間 平成29年7月24日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 クレームの基本概念を理解し、過去の事例から対応手順や留意点を知ることで、クレームの諸問題への対応力を高め、問題解決能力を身に付ける また、組織によるクレーム対応を学ぶことにより、自組織の顧客満足度改善計画や企画立案などについても理解を深める	
◎ 新任教員研修 対象 対象学科の専任教員1名 期間 平成29年8月1日～平成29年8月3日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 学生・教員のための実践心理、専修学校的制度、専修学校における制度と職業教育 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任指導育成のための目標管理力や新任の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。

そのため、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんのこと、評価をする上で他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標・育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2)学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事・給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
(4)学修成果	① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか

(9)法令等の遵守	① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に關し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多くいて違和感はないだろうが、タバコを吸った後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。
→今まで少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、
しっかりととした指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたらスタイルの動きに違和感がある。「スタイル対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)
学生にもっと(一般的)のサロンモデルをやって欲しい。
→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として 臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドレスコード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。
→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 輝彦	有限会社KATSUKI (ピューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31 日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表年月日:H29.9.28

URL: <http://www.omula.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知ってもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の目標及び計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム ・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	・収支報告書、財産目録

(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)情報提供方法 URL: http://www.omula.com/	

授業科目等の概要

(ファッショントン専門課程 ファッショングクリエイター学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技			校内	校外	専任	兼任			
○			キャリア教育 I	将来自分はどんな職業人になるのかの具体的なイメージを持たせ、自分自身を掘り下げ将来をイメージすることやクラス内での意見に耳を傾け共有することで人間力につなげていきます。	1 通	15	1	○			○	○			
○			マーケティング I	ファッションマーケットを理解する為に、自らの目でリサーチをしマーケットレポートを作成します。マーケットレポートはクラス内で発表し、ポジショニングマップを制作します。	1 ①	15	1	○			○				
○			デザイン画 I	パタンナーにデザインやイメージを正確に伝えるためのデザイン画、平絵の描き方の習得をします。イメージに適した画材を使って素材感や陰影の表現をします。	1 ① ②	60	2			○	○			○	
○			パターンメイキング I	業界で基本となる原型を作図し、スカート、パンツ、シャツ、ジャケットの作図手順を学習します。作図時間、縫製時間を設定し、時間内に作業が終了できるようにトレーニングします。	1 通	##	4			○	○			○	
○			ソーイングテクニック I	業界で基本となるスカート、パンツ、シャツ、ジャケットのディテール部分縫い縫製手順、縫製手順を学習します。各アイテム終了後、プレゼンテーションをします。	1 通	##	4			○	○			○	
○			服装史	西洋の服装史を中心に学びます。服の始めから、どう時代の変化と共に服も変化していくなど、時代背景を理解しながら流行を学びます。	1 ①	15	1	○			○			○	
○			ファッショングビジネス能力検定3級	素材産業から、服を企画・生産・販売する流通などの広範囲な領域のビジネス活動に加え、デザインの定義やコーディネーション、ファッション商品知識まで幅広く専門知識を学びます。	1 ③	30	2	○			○			○	
○			フォトショップ＆イラストレーター I	文字組みやフォントの応用、画像の加工から配置まで、イメージの魅力を最大限に引き出すための効果を習得し、オリジナルレイアウト(デザイン)を制作出来るようになります。	1 通	60	2			○	○			○	
○			創造性開発 I	デザイン発想するための方法やアイデアを実践的に学び、着装できる服として具体的なデザイン画に落とし込み、プレゼンテーションも学びます。	1 ②	15	1	○			○			○	
○			生産管理 I	生産管理において基礎知識となる業界構造の理解、組織や素材の種類や構造、染色や加工の種類や方法を学びます。	1 ②	15	1	○			○			○	

○		コレクション解説 I	最新のコレクション映像を見ながらコンセプトやテーマを知り、感じることで独自の視点での検証やものの考え方を身につけていきます。	1 ②	15	1	○			○		○	
○		スタイリングマップ検定	色の基礎知識を基に、アイテムカラー・人・形・素材・ファッショングループ分類をコーディネートの際に明確に分類できるように理解をしていきます。	1 ②	30	2	○			○		○	
○		就職ホームルーム I	まずは、自分を分析し自分で履歴書のヒントにしていきます。その後、ファッション業界の仕組みや職種を理解し、ファッション業界の流れを学びます。	1 ③	15	1	○			○		○	
○		ショー企画 I	自らのもつ世界観やイメージを表していく過程を学び、クリエーションからビジネスまでをトータルで表現できるテクニックを学びます。	1 通	90	3			○	○		○	
○		ショーメイク I	メイクの基礎として、ベース作りから学びメイク崩れをしない方法などを学びます。ショーに向けて、メイクレシピに沿って実際に出来るようにします。	1 通	30	1			○	○		○	
○		ショー演出 I	舞台についてや音源のつくり方、ウォーキングの構成、ショーのライティングイメージなどを考え、実際に構成表を作ることでショーを実践的に学びます。	1 通	30	1			○	○		○	
○		ショー製作 I	デザインにあった素材を探したり、加工して作ったりします。パターン製作から縫製まで、それぞれのデザインに合わせて個別の指導をしていきます。	1 通	##	4			○	○		○	
○		特別授業 I	その年に活躍されている方や学生からニーズのある方をお招きし、最新の情報や技術を学びます。	1 ③	15	1	○			○		○	
○		キャリア教育 II	将来自分はどんな職業人になるのかの具体的なイメージを持たせ、自分自身を掘り下げ将来をイメージすることや就職活動の中でのマナー、社会人としてのマナーを学びます。	2 通	15	1	○			○		○	
○		販売ロールプレイング I	設定時間内でロールプレイングを繰り返し実践し、販売知識や技術だけでなく、細かな仕草や言葉使いも指導します。コンテストを開催し、企業の方々へ披露します。	2 ② ③	90	3			○	○		○	
○		パターンメイキング II	原型を利用してデザインに必要なゆとりを加え、シルエット出しのためのダーツ処理を考慮した平面作図法を学びます。	2 通	90	3			○	○		○	
○		ソーイングテクニック II	ウール素材でのジャケット製作をします。裏地パターン製作をして縫製します。デザインにより各ディテールの縫製を通して応用を身に付けます。	2 通	60	2			○	○		○	
○		デザイン画 II	クオリティーを上げながら、「素早く描く」「スピード」を意識したドローイング反復練習をします。素材やシルエット、ディテールなどにこだわって商品企画やデザインをします。	2 通	60	2			○	○		○	

○		マーケティング II	市場が変化する中で、デザインとマーケティングの関係について学び、商品企画の視点から分析します。実践に役立つ知識を身につけ、ビジュアル資料制作を行います。	2 ①	15	1	○			○		○		
○		コレクション解説 II	最新のコレクション映像を見ながらコンセプトやテーマを知り、感じることで独自の視点での検証やものの考え方を身につけていきます。	2 ①	15	1	○			○		○		
○		アパレル CAD I	アパレル CAD の基本操作から応用を学び、パターン展開や工業用パターン製作が出来るよう、さまざまなアイテムでの実習を繰り返し技術の習得をします。	2 通	30	1			○	○			○	
○		ショップ企画	自分のショップを立ち上げることを仮定して実際の立地や物件を探し、創業計画書を完成させるために必要な項目について内容を決めています。	2 ②	15	1	○			○		○		
○		特殊素材 I	刺繍、レザー素材、レース地などの取り扱い方を学び、ディテールの作品製作をします。小物や雑貨、アクセサリーの製作をし、トータルコーディネートが出来るよう学習します。	2 ②	30	1			○	○		○		
○		生産管理 II	アパレルメーカーの目的や役割を知り、企画から生産に至るまでに必要な知識や技術を学びます。販売価格と原価、予算と売り上げなど企業経営に関わる内容を理解します。	2 ②	15	1	○			○		○		
○		販売スキル	販売知識で学習してきた基本マナー、コミュニケーション方法を実践で行います。制限時間内でお迎え～お買い上げ、お見送りまでの一連の流れを細かく指導します。	2 ②	15	1	○			○		○		
○		インターネットショップ検定	ネットビジネスの基礎知識からファッション業界での効果的な集客の仕方・活用、実践的な運営の仕組みを学びます。	2 ③	15	1	○			○			○	
○		実地研修	実地研修（インターンシップ）をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業からの指導を受けることによって学生の自覚を促します。	2 ③	30	1			○	○			○	
○		創造性開発 II	デザイン発想するための方法やアイデアを実践的に学び、着装できる服として具体的なデザイン画に落とし込みます。	2 ②	15	1	○			○		○		
○		ビジネスマナー I	ファッショング業界で即戦力となるべくビジネスマナーを習得します。プレゼンテーションや企画発表でも正しい言葉遣いが出来るように学びます。	2 ②	30	2	○			○		○		
○		就職ホームルーム II	学内企業セミナーの実施、企業説明会の紹介や、面接トレーニング、履歴書チェック、求人企業案内、基本動作などを行います。	2 通	15	1	○			○		○		
○		ショーメイク II	道具の正しい使用方法を学び適切なメイク法を学びます。ショーの為のメイクレシピを作成し、ベースメイク、アイメイク、ポイントメイクの仕方を学びます。	2 通	30	1			○	○			○	

○		ショー演出 II	自らデザインした服のショーでの演出について学習します。照明、曲、モデルのウォーキングや動きまで構想を練り、デザイナーの世界感を表現出来るよう学びます。	2 通	30	1		○	○		○	
○		ショー企画 II	自らのもつ世界観やイメージを表していく過程を学び、クリエーションからビジネスまでをトータルで表現できるテクニックを学びます。	2 通	90	3		○	○		○	
○		ショー製作 II	デザイン画を描き、デザインに合った素材を探し、パターン製作から縫製します。一部の洋服に関しては企画書に基づき、工場へ生産の発注を行い、指示を出します。	2 通	90	3		○	○		○	
○		特別授業 II	その年に活躍されている方や学生からニーズのある方をお招きし、最新の情報や技術を学びます。	2 ③	15	1	○		○		○	
○		キャリア教育 III	学生と社会人の違いを理解して、就職する目的を学習します。企業見学、ショップ見学と面接試験を踏まえた社会人マナーや基本的ルールを学習します。	3 通	15	1	○		○		○	
○		販売ロールフローイング II	「ファッショントン販売 II」を基に、顧客作りから対応方法、クレーム対応方法など中堅レベルの業務内容を学習し、ファッショントン販売能力検定2級に適応する能力を身に着ける。	3 ① ②	60	2	○		○	○	○	
○		パターンメイキング III	フラットパターンメーキングとドレーピングの両方のアプローチでパターン作成を行います。正確な工業用パターンメーキングが出来るよう繰り返し作業を行います。	3 通	90	3		○	○		○	
○		ソーリング テクニック III	オリジナルデザインで繊細でクオリティの高いオートクチュールと工程を簡素化した合理的な量産の両方を学びます。	3 通	90	3		○	○		○	
○		デザイン画 III	ファンデーション（下着）からアウター（外衣）に至るまで素材やデザインに合わせた表現方法、画材の選び方を学びます。	3 通	60	2		○	○		○	
○		生産管理 III	アパレル貿易実務から製品を売るために必要な品質や検査、基準を具体的に学び、アパレル生産の現状に対する問題点を自身で考え、協議、発表します。	3 ②	15	1	○		○		○	
○		マーケティング III	企業やブランドのニーズを読み取り、商品企画の視点から分析します。 また、ビジュアル資料を作成し、プレゼンテーションを行います。	3 ②	15	1	○		○		○	
○		コレクション解説 III	最新のコレクション映像を見ながらコンセプトやテーマを知り、感じることで独自の視点での検証やものの考え方を身につけていきます。	3 ②	15	1	○		○		○	
○		創造性開発 III	デザイン発想するための方法やアイデアを実践的に学び、着装できる服として具体的なデザイン画に落とし込みます。	3 ②	30	1		○	○		○	

○		フォーマル検定	冠婚葬祭や男女別の正しいフォーマル知識やルールを学び、日本フォーマルウェア協会が実施するフォーマルウェア検定のブロンズライセンス取得のための内容を習得します。	3 ②	15	1	○			○			○
○		アパレル CAD II	アパレル CAD の基本操作から応用を学び、パターン展開や工業用パターン製作が出来るよう、さまざまなアイテムでの実習を繰り返し技術の習得をします。	3 通	60	2			○	○			○
○		特殊素材 II	刺繍、ベルベット、ファー素材などの取り扱い方を学び、ディテールの作品製作をします。小物や雑貨、アクセサリーの製作をし、トータルコーディネートが出来るよう学習します	3 通	30	1			○	○		○	
○		ビジネスマナー II	ファッショング業界に限らず、社会で即戦力となるべくビジネスマナーを習得します。言葉遣いだけでなく、一般常識といわれるマナーを徹底して学び身につけます。	3 ②	15	1	○			○		○	
○		就職ホームルーム III	学内企業セミナーの実施、企業説明会の紹介や、就職活動に必要な文章力、表現力、面接トレーニング、履歴書チェック、求人企業案内、基本動作などを行います。	3 ①	15	1	○			○		○	
○		ショー企画 III	市場のトレンドを分析し、ブランドを立ち上げる事を想定して企画書を作成します。テーマ、コンセプトを決めデザインを考えデザイン画に落とし込んでいきます。	3 通	90	3			○	○		○	
○		ショー製作 III	デザイン画を描き、デザインにあった素材を探したり、加工して作ったりします。パターン製作から縫製まで、それぞれのデザインに合わせて個別の指導をしていきます。	3 通	#	4			○	○		○	
○		ショーメイク III	道具の正しい使用方法を学び適切なメイク法を学びます。ショーの為のメイクレシピを作成し、ベースメイク、アイメイク、ポイントメイクの仕方を学びます。	3 通	30	1			○	○		○	
○		ショー演出 III	自らデザインした服のショーでの演出について学習します。照明、曲、モデルのウォーキングや動きまで構想を練り、限られた時間の中でデザイナーの世界感を表現出来るよう学びます。	3 通	30	1			○	○		○	
○		特別授業 III	その年に活躍されている方や学生からニーズのある方をお招きし、最新の情報や技術を学びます。	3 ①	15	1	○			○			○
合計					59科目				2430	単位時間(単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の 3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
大村美容アッセイション 専門学校	平成4年3月31日	斎藤 ちづる	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人 大村文化学園	平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介	〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2番6号 (電話) 092-733-1766		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養	アッセイション専門課程	アッセイションクリエイター科	平成27年文部科学省告示第13号	一	
学科の目的	常に変化する流行を捉え、市場のニーズに合わせた商品企画が出来る人材を育成します。 また、企画書の作成から実際の生産に必要な仕様書・パターン製作・品質管理・納品・売り上げ計算まで実践的に学習する事により、即戦力となる人材を育成します。 更にオリジナリティーを発揮し、効果的なプレゼンテーション手法を習得することにより、自らデザイン提案が出来る業界を牽引できる人材を育成します。				
修業年限	昼夜 <small>全課程の修了に必要な 就業実績数又は単位数</small>	講義	演習	実習	実験 実技
3 年	昼間 2,430時間	540時間	0時間	1,890時間 0時間	0時間 単位時間
生徒総定員	生徒実員 120人	留学生数(生徒実員の内 32人)	専任教員数 0人	兼任教員数 4人	総教員数 9人 13人
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日	成績評価 卒業・進級条件	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行なう試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月20日～1月10日 ■春季:3月20日～4月8日		必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談をして、生活不良などを、学校と家族が一 体となって改善している。不登校の学生などは、教員が家まで迎えに行くなどして登校することを促進している。	課外活動 主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 町内行事への参加、学生自治組織・清掃ボランティア ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) ケイスピリット(アッセイション小売業)、サマンサタバサジャパンリミテッド(ファッション小売業)、サンエーピーディー(アッセイションメーカー・小売業)、フォルムアイ(アッセイションフォーム業)、フカヤ(アッセイション小売業) ■就職指導内容 就職ホームページによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導 など		■資格・検定名 バーン検定 アッセイションビジネス検定 フォーマル検定 種 ③ ③ ③ 受験者数 8人 6人 6人 合格者数 6人 5人 6人		
	■卒業者数 ■就職希望者数 ■就職者数 ■就職率 ■卒業者に占める就職者の割合 ■その他 ・進学者数: 0人	(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)	※種別欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)		
中途退学の現状	■中途退学者 平成28年4月1日時点において、在学者25名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者25名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 平成28年度は退学者なし		■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 日々の気配りや声掛けなどの強化、早めの気付きによる個別面談等の対応、カウンセラーによる面談		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ※有の場合、制度内容を記入 成績上位で選ばれるスカラシップ制度 災害被災者への学費減免制度	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)	■専門実践教育訓練給付: 給付対象 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価			URL: http://www.omula.com/		
当該学科のホームページURL					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「各部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行ひ、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などがされた者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等となります。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他の経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不正規の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しいファッション業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

① 本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案

② 委員会で内容を検討

③ 意見や改善案を理事長に提出

④ 委員会からの意見・改善案を加味して、校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月12現在

名前	所属	任期	種別
西岡 克	株式会社 商業界	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	①
佐藤 梨枝子	ワンスアラウンド 株式会社	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	③
小島 康介	株式会社 サンエー・ビューティー	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	③
竹下 昌克	株式会社 上野商会	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	③
斎藤 ちづる	大村美容ファッション専門学校 (校長)	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	
田谷 修宏	大村美容ファッション専門学校 (教務課長)	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

学校の次年度カリキュラムの編成準備及び現に進行しているカリキュラムの執行状況に応じて、年に2回以上実施する。

(開催日時)

第1回 平成28年2月10日 17:00～17:45

第2回 平成28年6月10日 15:00～17:00

第3回 平成28年2月3日 17:00～18:00

第4回 平成29年6月9日 15:00～17:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

◎授業科目「販売ロールプレイング」について

・よりリアルな接客の必要性が求められるので、台本的な状況設定でなく、臨機応変を求める方向性での授業展開をおこなっている

・お客様役の2年生の学生にも、「臨機応変さ」が求める内容のお客様役ができるように、事前にしっかりと指導をおこなっている

・実際に多くの店舗に行ってみて、販売員がどのような対応をおこなっているのかを観察して分析をするように指導している

・販売のスキルアップだけではなく、「お客様とは」ということを考えるよう取り組んでいく

・別科目でおこなっている実地研修(インターンシップ)は、接客・販売について実践的な習得をおこなうことができるので、インターンシップと連動した教科編成にする必要がないかを再検討していく

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コミュニケーション能力を持ち、顧客のニーズに合わせて柔軟に対応できる現場で即戦力となる社会人の早期育成をおこなうことを目的として、移り変わりの激しい業界の現在の状況を基にした指導や審査をおこなっていただき、自分に不足しているのは何なのか、実際に働く上で何が重要なのかを、学生自身に実体験として理解させることにより目標が明確になり、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます。

学生は、実際に企業に身を置き、実体験に基づいて指導を受けることにより、何が必要なスキルや能力なのかを学び、自分がすべき事は何かを自己分析して意識の向上を図ります。

学生は、実地研修レポートに目標とそのために取り組んだ事、企業から指導を受けた内容や自身の自己評価などを記入して、それを企業に提出して評価・アドバイスをもらった後、企業から学校へ提出されます。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実地研修	実務実習として実地研修(インターンシップ)をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業にその指導をおこなっていただきます	サマンサタバサジャパンリミテッド、ケイ・スピリット 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の、ファッション業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にファッション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。	
1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム (ア) 資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修 (イ) 業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修 (ウ) 企業が主催するコンテスト対策の授業 (エ) 最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修	
2. 教員の指導力向上のためのプログラム (ア) 組織のチームビルディングを形成するための研修 (イ) 傾聴技法を学ぶ研修 (ウ) 青年心理学や行動学、キャリア教育等学生のマインドを形成するための研修	
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等	
◎ 素敵に装うためのトレンドパターンメーキング夏集中講義 対象 対象学科の専任教員1名、兼任教員1名 期間 平成28年8月1日～平成28年8月2日 主催 文化服装学院 概要 トレンドデザイン6アイテムを1/4サイズで作図、・トレンドデザインを実寸サイズの作図・展開 業界に多大な影響を持つ文化服装学院が主催する一般向けのオープンカレッジ(生涯学習講座)に参加 科目 パターンメーキング	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
◎ 新任教員研修 対象 対象学科の専任教員3名、兼任教員3名 期間 平成28年8月2日～平成28年8月4日 主催 職業教育・キャリア教育財団、福岡県専修学校各種学校協会 概要 専修学校の在り方と授業実践、自己点検・評価の進め方、学内における救急処置 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任指導育成のための目標管理力や新任の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す	
◎ 中堅教員研修会(学校経営・学生対応) 対象 対象学科の兼任教員1名 期間 平成28年8月25日～平成28年8月26日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 学級経営の効果的手法と学生の個人力ウンセリング 学生の対人関係形成能力や社会形成能力の育成のために「Q-Uアセスメント」の理論や実践方法を学び、学生に対する教員個々の指導力を向上させるとともに、校内での教員間の連携を強化し、より効果的なクラス運営、学科運営をおこなえるようにする	
◎ 中堅教員研修会(教員のキャリアデザインワークショップ) 対象 対象学科の専任教員1名 期間 平成28年8月29日～平成28年8月31日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 職業教育全般の企画運営や学校運営全体のマネジメントや、教育専門職としての進路などの教員自らのキャリアパスについて自立的な将来設計をおこない、計画に基づくアクションプランニングを考えていく	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
◎ メンズテーラードジャケット パターン講習 対象 対象学科の専任教員3名 期間 平成29年8月9日～平成29年8月10日 主催 岩井洋服店 概要 メンズの体の構造理解とメンズのテーラードジャケット作図の方法 長年にわたり注文服を専門に作り続けている岩井洋服店による講習にて、高度な技術の習得と理解を深める 科目 パターンメーキング	
◎ レザーランド 手作りバッグ製作講座 対象 対象学科の専任教員1名、兼任教員1名 期間 平成29年8月3日 主催 レザーブランドToB Ataraxia 概要 縫製を中心としたレザーのショルダーバッグの製作を行い、レザーの取り扱い方、制作方法を学ぶ 皮革製品のバッグ/小物/アクセサリーのデザイン/制作をおこなうレザーブランドToB Ataraxiaによる講習にて、専門的な知識と技術を習得する 科目 特殊素材、ソーイングテクニック	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
◎ 中堅教員研修会(リスクマネージメント) 対象 対象学科の専任教員1名 期間 平成29年7月24日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 クレームの基本概念を理解し、過去の事例から対応手順や留意点を知ることで、クレームの諸問題への対応力を高め、問題解決能力を身に付ける また、組織によるクレーム対応を学ぶことにより、自組織の顧客満足度改善計画や企画立案などについても理解を深める	
◎ 新任教員研修 対象 対象学科の専任教員1名 期間 平成29年8月1日～平成29年8月3日 主催 職業教育・キャリア教育財団 概要 学生・教員のための実践心理、専修学校的制度、専修学校における制度と職業教育 新任教職員の指導・育成力を高めることを目標として、新任指導育成のための目標管理力や新任の能力を引き出すための組織コーチング力、メンタリング力をつけることを目指す	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。

そのため、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんのこと、評価をする上で他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標・育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2)学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事・給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
(4)学修成果	① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか

(9)法令等の遵守	① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に關し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

次年度からの新学科新設により留学生が多くなることが予想されるが、昨今は外国の方が多くいて違和感はないだろうが、タバコを吸った後にポイ捨てされたり、つばを吐いたりされるのは違和感がある。そこはしっかり教育をお願いしたい。
→今まで少なからず留学生はいたが、多くの留学生を迎えるのは経験がないので、頂いたご意見を踏まえて、
しっかりととした指導体制を確立していく

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたらスタイルの動きに違和感がある。「スタイル対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)
学生にもっと(一般的)のサロンモデルをやって欲しい。
→教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として 臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

制服の廃止は良し悪しはあるが、廃止をして私服にしたのであれば、定期的にテーマを決めて登校するのもいいのでは(ドレスコード)。その様子をSNSにあげると「楽しそう」と見てくれる高校生もいるかも。
→テーマを決めて登校する日を設定した

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月12日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 輝彦	有限会社KATSUKI (ピューティビジョン協同組合)	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	卒業生、企業
吉田 二三男	黒門東部自治会	H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	地域住民
松尾 ゆか		H27年4月1日～H30年3月31 日(3年)	保護者
木村 明彦		H28年4月1日～H30年3月31 日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表年月日:H29.9.28

URL: <http://www.omula.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知ってもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の目標及び計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム ・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	・収支報告書、財産目録

(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)情報提供方法 URL: http://www.omula.com/	

授業科目等の概要

(ファッション専門課程 ファッションクリエイター学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技			校内	校外	専任	兼任			
○			キャリア教育 I	将来自分はどんな職業人になるのかの具体的なイメージを持たせ、自分自身を掘り下げ将来をイメージすることやクラス内での意見に耳を傾け共有することで人間力につなげていきます。	1 通	15	1	○		○	○				
○			マーケティング I	ファッションマーケットを理解する為に、自らの目でリサーチをしマーケットレポートを作成します。マーケットレポートはクラス内で発表し、ポジショニングマップを制作します。	1 ①	15	1	○		○					
○			デザイン画 I	パタンナーにデザインやイメージを正確に伝えるためのデザイン画、平絵の描き方の習得をします。イメージに適した画材を使って素材感や陰影の表現をします。	1 ① ②	60	2		○	○		○			
○			パターンメイキング I	業界で基本となる原型を作図し、スカート、パンツ、シャツ、ジャケットの作図手順を学習します。作図時間、縫製時間を設定し、時間内に作業が終了できるようにトレーニングします。	1 通	##	4		○	○		○			
○			ソーイング テクニック I	業界で基本となるスカート、パンツ、シャツ、ジャケットのディテール部分縫い縫製手順、縫製手順を学習します。各アイテム終了後、プレゼンテーションをします。	1 通	##	4		○	○		○			
○			服装史	西洋の服装史を中心に学びます。服の始めから、どう時代の変化と共に服も変化していくなど、時代背景を理解しながら流行を学びます。	1 ①	15	1	○		○		○			
○			ファッションビジネス能力検定3級	素材産業から、服を企画・生産・販売する流通などの広範囲な領域のビジネス活動に加え、デザインの定義やコーディネーション、ファッション商品知識まで幅広く専門知識を学びます。	1 ③	30	2	○		○		○			
○			フォトショップ & イラストレーター I	文字組みやフォントの応用、画像の加工から配置まで、イメージの魅力を最大限に引き出すための効果を習得し、オリジナルレイアウト(デザイン)を制作出来るようになります。	1 通	60	2		○	○		○			
○			創造性開発 I	デザイン発想するための方法やアイデアを実践的に学び、着装できる服として具体的なデザイン画に落とし込み、プレゼンテーションも学びます。	1 ②	15	1	○		○		○			
○			生産管理 I	生産管理において基礎知識となる業界構造の理解、組織や素材の種類や構造、染色や加工の種類や方法を学びます。	1 ②	15	1	○		○		○			

○		コレクション解説 I	最新のコレクション映像を見ながらコンセプトやテーマを知り、感じることで独自の視点での検証やものの考え方を身につけていきます。	1 ②	15	1	○			○		○	
○		スタイリングマップ検定	色の基礎知識を基に、アイテムカラー・人・形・素材・ファッショングループ分類をコーディネートの際に明確に分類できるように理解をしていきます。	1 ②	30	2	○			○		○	
○		就職ホームルーム I	まずは、自分を分析し自分で履歴書のヒントにしていきます。その後、ファッション業界の仕組みや職種を理解し、ファッション業界の流れを学びます。	1 ③	15	1	○			○		○	
○		ショー企画 I	自らのもつ世界観やイメージを表していく過程を学び、クリエーションからビジネスまでをトータルで表現できるテクニックを学びます。	1 通	90	3			○	○		○	
○		ショーメイク I	メイクの基礎として、ベース作りから学びメイク崩れをしない方法などを学びます。ショーに向けて、メイクレシピに沿って実際に出来るようにします。	1 通	30	1			○	○		○	
○		ショー演出 I	舞台についてや音源のつくり方、ウォーキングの構成、ショーのライティングイメージなどを考え、実際に構成表を作ることでショーを実践的に学びます。	1 通	30	1			○	○		○	
○		ショー製作 I	デザインにあった素材を探したり、加工して作ったりします。パターン製作から縫製まで、それぞれのデザインに合わせて個別の指導をしていきます。	1 通	##	4			○	○		○	
○		特別授業 I	その年に活躍されている方や学生からニーズのある方をお招きし、最新の情報や技術を学びます。	1 ③	15	1	○			○		○	
○		キャリア教育 II	将来自分はどんな職業人になるのかの具体的なイメージを持たせ、自分自身を掘り下げ将来をイメージすることや就職活動の中でのマナー、社会人としてのマナーを学びます。	2 通	15	1	○			○		○	
○		販売ロールプレイング I	設定時間内でロールプレイングを繰り返し実践し、販売知識や技術だけでなく、細かな仕草や言葉使いも指導します。コンテストを開催し、企業の方々へ披露します。	2 ② ③	90	3			○	○		○	
○		パターンメイキング II	原型を利用してデザインに必要なゆとりを加え、シルエット出しのためのダーツ処理を考慮した平面作図法を学びます。	2 通	90	3			○	○		○	
○		ソーイングテクニック II	ウール素材でのジャケット製作をします。裏地パターン製作をして縫製します。デザインにより各ディテールの縫製を通して応用を身に付けます。	2 通	60	2			○	○		○	
○		デザイン画 II	クオリティーを上げながら、「素早く描く」「スピード」を意識したドローイング反復練習をします。素材やシルエット、ディテールなどにこだわって商品企画やデザインをします。	2 通	60	2			○	○		○	

○		マーケティング II	市場が変化する中で、デザインとマーケティングの関係について学び、商品企画の視点から分析します。実践に役立つ知識を身につけ、ビジュアル資料制作を行います。	2 ①	15	1	○			○		○		
○		コレクション解説 II	最新のコレクション映像を見ながらコンセプトやテーマを知り、感じることで独自の視点での検証やものの考え方を身につけていきます。	2 ①	15	1	○			○		○		
○		アパレル CAD I	アパレル CAD の基本操作から応用を学び、パターン展開や工業用パターン製作が出来るよう、さまざまなアイテムでの実習を繰り返し技術の習得をします。	2 通	30	1			○	○			○	
○		ショップ企画	自分のショップを立ち上げることを仮定して実際の立地や物件を探し、創業計画書を完成させるために必要な項目について内容を決めています。	2 ②	15	1	○			○		○		
○		特殊素材 I	刺繍、レザー素材、レース地などの取り扱い方を学び、ディテールの作品製作をします。小物や雑貨、アクセサリーの製作をし、トータルコーディネートが出来るよう学習します。	2 ②	30	1			○	○		○		
○		生産管理 II	アパレルメーカーの目的や役割を知り、企画から生産に至るまでに必要な知識や技術を学びます。販売価格と原価、予算と売り上げなど企業経営に関わる内容を理解します。	2 ②	15	1	○			○		○		
○		販売スキル	販売知識で学習してきた基本マナー、コミュニケーション方法を実践で行います。制限時間内でお迎え～お買い上げ、お見送りまでの一連の流れを細かく指導します。	2 ②	15	1	○			○		○		
○		インターネットショップ検定	ネットビジネスの基礎知識からファッション業界での効果的な集客の仕方・活用、実践的な運営の仕組みを学びます。	2 ③	15	1	○			○			○	
○		実地研修	実地研修（インターンシップ）をおこない、学生が企業スタッフの一員として補助的作業等の現場体験をし、企業からの指導を受けることによって学生の自覚を促します。	2 ③	30	1			○	○			○	
○		創造性開発 II	デザイン発想するための方法やアイデアを実践的に学び、着装できる服として具体的なデザイン画に落とし込みます。	2 ②	15	1	○			○		○		
○		ビジネスマナー I	ファッショング業界で即戦力となるべくビジネスマナーを習得します。プレゼンテーションや企画発表でも正しい言葉遣いが出来るように学びます。	2 ②	30	2	○			○		○		
○		就職ホームルーム II	学内企業セミナーの実施、企業説明会の紹介や、面接トレーニング、履歴書チェック、求人企業案内、基本動作などを行います。	2 通	15	1	○			○		○		
○		ショーメイク II	道具の正しい使用方法を学び適切なメイク法を学びます。ショーの為のメイクレシピを作成し、ベースメイク、アイメイク、ポイントメイクの仕方を学びます。	2 通	30	1			○	○			○	

○		ショー演出 II	自らデザインした服のショーでの演出について学習します。照明、曲、モデルのウォーキングや動きまで構想を練り、デザイナーの世界感を表現出来るよう学びます。	2 通	30	1		○	○		○	
○		ショー企画 II	自らのもつ世界観やイメージを表していく過程を学び、クリエーションからビジネスまでをトータルで表現できるテクニックを学びます。	2 通	90	3		○	○		○	
○		ショー製作 II	デザイン画を描き、デザインに合った素材を探し、パターン製作から縫製します。一部の洋服に関しては企画書に基づき、工場へ生産の発注を行い、指示を出します。	2 通	90	3		○	○		○	
○		特別授業 II	その年に活躍されている方や学生からニーズのある方をお招きし、最新の情報や技術を学びます。	2 ③	15	1	○		○		○	
○		キャリア教育 III	学生と社会人の違いを理解して、就職する目的を学習します。企業見学、ショップ見学と面接試験を踏まえた社会人マナーと基本的ルールを学習します。	3 通	15	1	○		○		○	
○		販売ロールフ"レイング II	「ファッショントン販売 II」を基に、顧客作りから対応方法、クレーム対応方法など中堅レベルの業務内容を学習し、ファッショントン販売能力検定2級に適応する能力を身に着ける。	3 ① ②	60	2	○		○	○	○	
○		パターンメイキング III	フラットパターンメーキングとドレーピングの両方のアプローチでパターン作成を行います。正確な工業用パターンメーキングが出来るよう繰り返し作業を行います。	3 通	90	3		○	○		○	
○		ソーリング テクニック III	オリジナルデザインで繊細でクオリティの高いオートクチュールと工程を簡素化した合理的な量産の両方を学びます。	3 通	90	3		○	○		○	
○		デザイン画 III	ファンデーション（下着）からアウター（外衣）に至るまで素材やデザインに合わせた表現方法、画材の選び方を学びます。	3 通	60	2		○	○		○	
○		生産管理 III	アパレル貿易実務から製品を売るために必要な品質や検査、基準を具体的に学び、アパレル生産の現状に対する問題点を自身で考え、協議、発表します。	3 ②	15	1	○		○		○	
○		マーケティング III	企業やブランドのニーズを読み取り、商品企画の視点から分析します。 また、ビジュアル資料を作成し、プレゼンテーションを行います。	3 ②	15	1	○		○		○	
○		コレクション解説 III	最新のコレクション映像を見ながらコンセプトやテーマを知り、感じることで独自の視点での検証やものの考え方を身につけていきます。	3 ②	15	1	○		○		○	
○		創造性開発 III	デザイン発想するための方法やアイデアを実践的に学び、着装できる服として具体的なデザイン画に落とし込みます。	3 ②	30	1		○	○		○	

○		フォーマル検定	冠婚葬祭や男女別の正しいフォーマル知識やルールを学び、日本フォーマルウェア協会が実施するフォーマルウェア検定のブロンズライセンス取得のための内容を習得します。	3 ②	15	1	○			○			○
○		アパレル CAD II	アパレル CAD の基本操作から応用を学び、パターン展開や工業用パターン製作が出来るよう、さまざまなアイテムでの実習を繰り返し技術の習得をします。	3 通	60	2			○	○			○
○		特殊素材 II	刺繍、ベルベット、ファー素材などの取り扱い方を学び、ディテールの作品製作をします。小物や雑貨、アクセサリーの製作をし、トータルコーディネートが出来るよう学習します	3 通	30	1			○	○		○	
○		ビジネスマナー II	ファッショング業界に限らず、社会で即戦力となるべくビジネスマナーを習得します。言葉遣いだけでなく、一般常識といわれるマナーを徹底して学び身につけます。	3 ②	15	1	○			○		○	
○		就職ホームルーム III	学内企業セミナーの実施、企業説明会の紹介や、就職活動に必要な文章力、表現力、面接トレーニング、履歴書チェック、求人企業案内、基本動作などを行います。	3 ①	15	1	○			○		○	
○		ショー企画 III	市場のトレンドを分析し、ブランドを立ち上げる事を想定して企画書を作成します。テーマ、コンセプトを決めデザインを考えデザイン画に落とし込んでいきます。	3 通	90	3			○	○		○	
○		ショー製作 III	デザイン画を描き、デザインにあった素材を探したり、加工して作ったりします。パターン製作から縫製まで、それぞれのデザインに合わせて個別の指導をしていきます。	3 通	#	4			○	○		○	
○		ショーメイク III	道具の正しい使用方法を学び適切なメイク法を学びます。ショーの為のメイクレシピを作成し、ベースメイク、アイメイク、ポイントメイクの仕方を学びます。	3 通	30	1			○	○		○	
○		ショー演出 III	自らデザインした服のショーでの演出について学習します。照明、曲、モデルのウォーキングや動きまで構想を練り、限られた時間の中でデザイナーの世界感を表現出来るよう学びます。	3 通	30	1			○	○		○	
○		特別授業 III	その年に活躍されている方や学生からニーズのある方をお招きし、最新の情報や技術を学びます。	3 ①	15	1	○			○			○
合計				59科目			2430単位時間(単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
(留意事項)	1学期の授業期間	週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の 3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。